

2000年12月27日(水) ”若き世捨て人?それとも・・・”

冬期講習の真っ最中。でもね、どう対応しようか、考えてます。中学3年生男子。中学2年生の2,3学期時の出席は、30日に満たない。しかしながら、私に対応してから数ヶ月余後の中学3年生の1学期は、ある医師も驚く信じられない程の回復(?)で、でも、本人にとってみると、ただ「格好悪いから」との理由で、ほぼ皆出席。元々学力のある生徒で、1学期中間試験は軒並み40点台。ところが、期末試験前に体調を崩し、休みがちに。それ故に、期末試験も一部の科目の試験が受けられなくなり、1学期の成績は燦々たるもの。そのショックで、夏休みは極度に落ち込み、2学期も平均すれば、週休2日ならぬ、”週出席2日”。当方の都合がつかずなかなか会えないので、時々電話を入れる。「う～ん、もう、どうでもいいや、自分は」と。「何もしたくないし、何も考えたくない。」「そうかあ、そうなの。別にいいじゃん。そうだったら、何にもしなくても、何にも考えなくたっていいね。」「ただね。今の君のそうした選択は、勿論のこと、自分が考えたこと、自分がしていることであって、だれからも指図されての事でない、紛れもなく君の選択なんだよね。そうした決断ができるようになったことは、君にとっては大きな成長なんだよね。」

2000年12月24日(日) ”遂に冬期講習突入!!!”

いよいよ今日、いやもう昨日になってしまいましたが、20世紀最後の冬期講習に入ってしまった。冬休みに入り、家族はまだ寝静まっております朝6時半、一人トボトボと起き、着替えては洗面所に向かう。朝食も食わず、まずは藤枝駅前教室に行って東進衛星授業の録画予約のセットをして静岡教室に。途中、コンビニで朝食を買い、静岡教室でそれを食べながら新聞を読む。寂しいですね、こんな朝は。ところが、早速の8時15分過ぎ、遠方の町のご父兄より相談の電話が入る。う～ん、この冬休みは多忙過ぎて、仕方なく面談を正月明けにして頂く。8時半、中3の冬期講習・英語の授業開始。開始早々、ある生徒を注意する。背すじを曲げ、頭を机に置いた握り拳の上に置いて勉強する姿勢、私は厭なんですね。学問に対する冒涇とまで思うんですよね。11時半過ぎ、藤枝駅校の高校生数名より電話が入る。何?1時に教室が開くかを尋ねる電話。頑張る高校3年生。嬉しいですね。藤枝駅前校の高校3年生は今年も燃えています!

2000年12月22日(金) ”2001年度大学入試合格第3弾、おめでとう!”

おめでとう!

常葉学園大学教育学部生涯教育科合格 S. Kさん

いや～、ホントよかったですね。先に合格しておりました大学の入学金支払い期限日をすっかり忘れ、無効にってしまったので受験だったけど、頑張りました。追い上げの小論文指導は日が無くちと大変でしたが、受ければそんなはどっかに飛んでいってしまうものだよね。中学校2年生から5年間、本当によく頑張りました。もう一度言わせて下さいね。おめでとうおおおお!!!!でもね、本当の意味の勉強はこれからです。今度はとことん深

く勉強しましょう。

追伸. 本日、只今静岡県に認証申請中の特定非営利活動法人（NPO）「静岡県教育フォーラム」のページを開設致しました。またご覧になって下さいませ。

2000年12月16日（土） ” 非行行動の対処に思う”

実はこのところのこの日誌のお休みには、ちょっとまた訳がありました。12月7日付けの日誌に、私の高校時代の体験話を書きましたのも、その理由に関係しております。勿論、今回は具体的なことは一切ここ書くことはできませんが、このタイトルの件に関して中途半端な対処では絶対に解決できないと考えております。可能な限りに集めた情報源を元に、その情報を彼らに突きつけて彼らに話させることは一切せず（そうしたことをすると仕返しが行われる）、じっくりと彼らの口からその情報を話させ、全貌をはっきりと掴んだ上で、大元を絶っていく。それも、二度とそうした行動に出れない状況に大元を追い込むことだと思えますね。なんか話が抽象的すぎて、ごめんなさい。今日はこの辺で。

2000年12月15日（金） ” 2001年度大学入試合格第2弾、おめでとう！”

おめでとう！

愛知学院大学文学部心理学科合格 H. N. 君

この7月からの追い上げはすごかったですね。その努力が実ったの合格、おめでとう！今人気の心理学科で大変だったけど、これからも益々この学科が重要視されると思います。一生懸命勉強して下さいね。

2000年12月11日（月） ” 20数年ぶり藤枝東高同級会。どの顔も懐かしい。”

いや～、懐かしかったですねえ。高校を卒業してもう28年。みんなすっかりいい親父に、いいお母さんになっちゃいましたね。仕事半ばで参加したものの、夜の9時半で、もうフランス在住のS君と東京在住のM君はお帰りで、残念。せめて同じ剣道部だったS君とは少しお話をしたかったですね。（でも、ま、いいか。メール交換ができるから。）過去3回ほど同校同級会のお誘いを受けたものの、仕事柄出席できず、私は皆さんと高校卒業以来の再会でした。正直、お名前を言われるまで顔と名前が一致しなかった級友は2人おりましたが、当然と言えば当然ですが、年はとったものみんなあのころのまんまですね。そのうち一人のH君と地元のS君（殆ど寝てましたが）と深夜12時過ぎまで話が弾み、お店の方にすっかりお世話になってしまいました。ありがとうございました。お店も気に入り、次の晩（昨夜）も市内の学習塾の忘年会でお邪魔させて頂きました。

2000年12月9日（土） ” 今日は、20数年ぶりの藤枝東の同級会”

と、タイトルを書いておりましたら、生徒から急ぎの電話。期末試験を控えている高校生のため、今からちょっと臨時の学習指導をやることになっちゃいましたので、今日はこ

こで。ごめんなさい。あ～あ・・・・・・・・

2000年12月7日（木） ”高1の時いきなり殴られたことを思い出しました”

また数日日誌をお休みしちゃいました。ごめんなさい。この頃いろんなことがあるんです。それこそ20数年前、私が藤枝東に通い始めた頃、朝、ランドセルを背負ったまま、サッカーボールをリフティングしながら登校しているお隣の藤枝小の児童を見てびっくりしたことがあります。その子達に、「サッカーは楽しい？」って聞いたら、「うん！だって、東高に行ってサッカーやるんだもん！」と、元気な声が返ってきたんですね。当時私は剣道をやってまして、毎朝金谷の北の外れにあった家を朝6時前に出て、一番に高校の門をくぐって早朝自主練をしてたんです。あの子達も私もそれぞれ目標があって、勿論練習もきつかったと思いますよ（私の剣道部もきつかったですよ）。でも、あの元気な声からすれば、きっとその練習も楽しかったでしょうね。私も勉強との両立に一時は悩みましたが、それなりに楽しかったです。

そんな頃、下校途中で病院かどこかに寄る用事があって、大井川鉄道の新金谷駅で下車、用事を済まして再び新金谷駅の待合室の入り口で、竹刀とカバンを持って立っておりましたら、数人の高校生風の少年達に声を掛けられたんですね。私も無知だったんですね。何かと思っについて行きましたら、100m位行った駐車場のところで立ち止まり、「めがねを外せ！」って言うんですね。「なに～！？」と言いかけた途端、いきなり顔を殴られ、竹刀とカバンを持ったままふらつき、めがねが飛んでしまったんです。目が見えなくてボーとしたままめがねを探し、数分で拾って掛けて辺りを見たら、もうその少年達がバイクに乗って逃げ出したところだったんですね。たまたま通りかかった方がバイクのナンバーをメモしてくれ、急いで県警捜査課長の義兄に連絡を取り、駆けつけた島田署の警察官と一緒にその日の夜8時過ぎに殴った少年を検挙。その少年達を調べていくと、その日私の家の隣の高校生を含めて数人の高校生が同様な被害に遭ったことが判明。事件後、そのグループも自然解散し、後日そのグループの一人の少年の母親からお詫びとお礼を言われました。こんなことをつい思い出すこの頃です。

2000年12月2日（土） ”青島地区おやじの会 第2回例会 その2”

先月25日の日誌が書きかけだったので、続きを書きます。

6月11日の当日誌をお読み頂ければ分かりますが、この「青島地区おやじの会」は、この地区の小中学校の前年度のPTA会長が呼びかけ人となり、各学校のPTAの枠を越えて親同士の、特に父親同志の交流を目論んで、年2回程例会を開こうとするです。前夜急に雨が降りちょっと心配しましたが、翌26日は見事に晴れ渡り、雲一つない晴天。晩秋の絶好の行楽日となりました。役員の皆様には8時過ぎにお集まり頂き、行く途中地元の朝市と地元の農家から調達したいも煮の材料を調理。勿論、奥さん達も手伝って頂いたんですが、私も含め新旧PTA会長さん達も慣れない手つきで里芋や蓮根、人参、大根の皮を

むき、手頃な大きさに切る。手際よく調理も終わり、ガスコンロとボンベ、釜を車でさんかく山の頂上に運び、ちょうど集合時間の15分前に準備が完了。青島北中前会長さんと青島東小会長さんのお二人が山頂に残り、参加者が登ってくるまでにいも煮の煮付けをして頂きました。ふもとで参加者の皆さんに今回の例会の簡単な挨拶をして、いよいよさんかく山ハイキング。地元の農家の人達が新たに切り開いてくれた山道を登ったんですが、竹林や雑木林を通り、急斜面あり、蛇行道ありと変化に富み、加えて途中、子ども達のために、木登りつつ登りができる場所も作ってくれてあり、皆さんに大変楽しんで登って頂きました。50分ほどで山頂に着きましたが、昼前にも関わらず一汗かくいい運動でおなかもすき、早速昼食といも煮会。そのいも煮なんですが、地元農家のおばあちゃん仕込みのみそを私が量を間違えとても足らず、ついでに買ってあったしょうゆを足して上手に煮付けて頂き、とてもおいしく頂きました。山頂で当Kids愛ランドの子ども達が作った”おれんちの砦”や周辺の雑木林で1時間半ほど遊び、登ってきた道と違う道を下山。次はふもとでみかん狩り。食い放題とか、その農園主のご厚意で10個まで持ち帰っていいと言われると、私を含めてみんなつい欲が出ちゃうんですね。一生懸命大きいみかんを選んではしまうんです。でも、発見しました。実は大きいみかんよりやや小ぶりのみかんの方が糖分が充分あって一番おいしいんですね。だから、みかん狩りは農家にとって大変助かるんじゃないかな？だって、大きいみかんを競って食べて頂くんで、その処分までできてしまうんですから。いも煮をたらふく食べて（確か4杯も）のみかん狩り。まあよく食べました。皆さん、助宗の秋を充分楽しんで頂き、午後3時解散致しました。次は来年の春、瀬戸川散策&野草の天ぷらと、はや役員の中から企画があがっております。また楽しみです。

2000年12月1日（金） ”2001年度大学入試合格第1弾、おめでとう！”

おめでとう！

早稲田大学第1文学部合格 ** **君（本人の希望で名前公表は来年。）

推薦合格に大変恐縮している君だけど、この合格は君の日頃の努力の賜。もっと自分の誇りとしていいと思うよ。

おめでとう！

法政大学法学部政治学科合格 I. S.さん

ほんと、これこそ君の3年間の努力で勝ち取った大学ですよ。立派です。しかも、目標の東京6大学の1つに合格でさぞご両親も大満足でしょう。

おめでとう！

東京電気大学工学部電子工学科合格 Y. T.君

君もこの合格は、高校入学以来トップクラスを維持してきた努力の賜です。しかし、受験勉強に追われることのないこれからの勉強が、本当の勉強です。頑張ろう！

おめでとう

中京大学経営学部合格 Y. N. 君。(名前公表は後日)

サッカーに勉強にと励んできた努力の結果が、この合格と思います。よく頑張ってきました。これからもその姿勢を変えることなく、自分を錬磨して下さい。

おめでとう！

山梨学院大学法学部法学科合格 H. Y. 君

高校から当校に入ってきた君だけど、君もこの3年間よく頑張ってきました。それがこの晴れある合格に繋がったものと評価します。

おめでとう！

人間環境大学人間環境学部合格 T. I. 君

ラグビーに打ち込んだ高校生活。一転しての受験勉強で早々に大学合格、よく頑張りました。ほんと、おめでとう。

おめでとう！

浜松大学合格 K. S. さん。(まだ他大学受験のため名前未公表。)

君も本命の大学入試がこれから。中学校以来このかたよく当校に通って勉強をしました。その努力がこれからの入試に発揮されることを祈ります。

おめでとう！

山梨学院大学経営情報学部合格 N. T. 君

いやー、こんな事を言っでは失礼ですが、正直君の合格にはびっくりしました。しかし、君も最後には底力を出すんですね。声高々に言います！おめでとう！！！！

2000年11月25日(土) ”青島地区おやじの会 第2回例会 その1”

確かこの日誌は、6月11日のPTA活動・「青島北地区おやじの会」の活動の日から始まったと思います。明日はその第2回目の活動です。今回は藤枝市助宗・さんかく山ハイキングです。なんでまた助宗？なんて言われるかもしれませんね。本来は地元・青島地区(藤枝駅前・上青島・下青島・小石川町・東町・内瀬戸・瀬戸新屋・水上・南新屋・青木・新南新屋・志太・瀬古・駿河台・南駿河台)を散策して地元をもっと知ることでも大変いいことなんですが、今回は前回呼びかけました青島北小・青島北中・青島東小の各PTAの他に、青島中・青島小各PTAの皆さんにも呼びかけましたので、前回の103名を上回る参加者がありましたら、それに対応できる場所が思い浮かばず、私の活動場所でもあります助宗になってしまいました。ところがこの秋口、いろんな行事がたて続き、おまけに中学校は期末やら学力調査やらの直前で、募集しました処、前日の本日までに18家族57名程。でも、いも煮の準備を考えれば、かえってこの位でよかったかなって思ってます。……………なんて書きかけまま、忙しさにかまけてすっかり日誌がそのままになっちゃいました。でも、このまま掲載しちゃいます。(11月30日朝)

2000年11月22日(水) ”学校に行かせたい親とコミックに気を紛らす子”

まだこの日誌を読んで下さっておりますでしょうか？H. S. 先生。この場を借りて、M君のこのところの状況をお知らせ致します。彼が学校を休み始めてもうかれこれ 1 年になりますね。このところやはり彼もそのことを意識し始めてきているのでしょうか。いろんな処に相談に行く母親を見て、いよいよ彼も「自然な形で学校に行くで、相談に行かなくてええ。」なんて言ったようです。しかし、そう期待した母親を見ては、彼はまたもや交換条件に好きなコミックをねだる。勿論、私はそんな彼の言動を批判しているわけではありません。彼も随分と自分の中でもがき苦しんでいるように思います。でも、コミックだけだったらまだしも、そう簡単には買えない物までの要求にはやはり親も答えられない。彼のみならず、その母親の苦悩も分かります。それ故に、まずはそんな彼の気持ちを温かく受け止めた上で、その事情を落ち着いて彼に伝え、学校に行かせたいという親の気持ちは事実としても、決してそれを彼に要求することなく、学校に行く、行かないは彼の判断に任せて、親はそんな彼をじっと見守ってあげる旨を、このところまた母親にお話ししております。またお電話で詳しくお話致します。

2000 年 11 月 21 日 (火) ” 思うまま ”

なんと 1 週間ぶり。たいへん失礼しちゃいました。とにかく、なんだかんだと忙しい。そして、ホント眠いです。体力にはちょっと自信がありました。10, 11 月に入っても日曜日ごとに何か行事がありまして、ほぼ 2 ヶ月余り殆ど休みなしの状態です。毎日朝 8 時頃から深夜まで動き回っておりますと、やはり疲れを感じる年齢になっちゃいました。この 1 週間、またいろんな事がありました。

19 日、昼間の手打ちそば道場を終え、夕方、あの吉田町の居酒屋・幸に行ってきました。新旧 P T A 役員の懇親会に、その店の設計者・村田氏と生徒の親でもある S 会社社長ご夫妻らもお招きして、地酒と海の幸料理を楽しみ、カラオケと深夜帰宅。女房に、「いいわねえ、ひとりで楽しんできてえ」と……。でも、本音を言いますと、このところいじめ、不登校等のご相談にちょっと神経を使い果たし、気分転換したかったんです。

一方で、来年 2 月の N P O 認証のため、ただ今 2 つばかりの企画を立案中です。それは、心理カウンセリング研修会と、わんぱくスプリングキャンプなんです。常葉学園大学と静岡カヌークラブにご協力を頂いて計画を進めております。

そうそう、あのサッカーくじ・トトのお話。19 日の懇親会の最中、見事に全試合勝敗的中判明の方が居らして、みんな大拍手。その方の知人が前回 1 等 600 万円当てたとのことで、みんな「すご〜い！」の連発。暫し賞金金額に話題が集中。し・か・し、その後 1 等 134 人中につき 1 人 24 万円。10 人での共同購入のため、1 人 2 万 4 千円の配当と判明。でも、すごいですよね、あの J 1、J 2 全試合を当てるんですから。

あれ、もう 10 時か (勿論朝の)、出かけなくては。ではまた。

2000年11月14日（火） ”いじめの解決法”

やはりいじめのことを書かざるをえません。私が学んできました交流分析の本を再び紐解いて見ました。杉田先生もおっしゃっております通り、いじめによる心の傷はそう簡単には癒えるものではありません。加害者と被害者が担任の先生を交えてよく話し合っても、加害者は謝ればその行為は償える、善意な気持ちでお互いの関係を修復しようとする、もう顔を合わせるのも厭だと言われる、だから、もう無視するしかないという論理になる。そこが違う。加害者は、被害者がもう顔を見るのも厭、同じ教室で、好きなクラブでも同じくクラブにいることすら厭なほど、心が傷ついている事実をもっと謙虚に受け止めるべきである。そうすれば、自ずと己の取るべき行動が分かってくるはずである。「無視するしかない。」と半ば捨てせりふを吐く状態では、自分のとった行動が相手の「心」に及ぼした影響への認識が全くないか、あるいは、まだまだ認識が薄すぎる。先生がおっしゃっております、クラスみんなでいじめについての「ロールプレイ」を交えた話し合いが必要になってくる。

2000年11月10日（金） ”いじめによる心の傷は深し。”

タイトル通りです。いじめた方は先生に言われ、親にもさんざん叱られて、本人に謝る。仮に善意な気持ちで何とかその子との関係を修復しようとしてくれても、いじめられた方はそれもいやなんですね。傷つけられた心の傷はそう簡単には癒えないものです。学校にも行けないほど傷つけられた心は、本心から謝られても、顔も見ると、同じクラスにいることすらいやなんですね。（だから、学校に行けないんです。）まわりの人達がそんな彼の気持ちを十分に汲んであげて、癒えるのを温かく見守ってあげることなんですね。いじめには大小はありません。どんな場合でも解決には時間がかかりますね。そんなことを再び実感した今日この頃です。

2000年11月9日（木） ”ほぼ1週間ぶりに日誌再開。”

「こんばんは」と言うより、「おはようございます」ですよ。ただ今9日午前1時45分であります。2日以来こじらしててしまった風邪も、高校の大先輩の薬剤師さんに薬を調合して頂き、3日後どうにか治りかけ、5日の「静岡県私立大学進学相談会」は何とかなることができました。あいにく高校の模試と重なり、参加者は目標には達することができませんでしたが、当教育関連事業協同組合と県内数個の私立大学との提携のお話も頂き、大変有意義なものとなりました。関係各位の皆様には、改めて御礼も申し上げます。ありがとうございました。12日は今度は「志太地区私立高校進学相談会」、次の19日は「第14回手打ちそば道場」、そして26日は「第2回青島地区おやじの会」と、今月は毎週日曜日の度に行事を抱えております。頑張っていきますので、またこの日誌も宜しくお付き合い下さいませ。

2000年11月3日（木） ” 県芸術祭賞鑑賞。”

私の子ども達、特に現在小学校6年生の次女が、学校の長期休暇の度に大変お世話になっております、静岡市の久松絵画教室の奥様先生の作品が、今年度の県芸術祭の日本画部門で芸術祭賞を受賞。おめでとうございます。早速今日、家族+ラッシー君みんなで展示会場のクリエイト浜松まで出かけてきました。昨日の静岡新聞朝刊にもその絵の写真が掲載されましたが、勿論実物はその深みを強く感じさせくれました。横断歩道での人為的な事故で瀕死の鳥が、もがき苦しみながら訴えている。過去同様な事故で亡くなった鳥たちの遺影。遠い過去に亡くなった白色の鳥や亡くなったばかりの生きているかのような鳥たち。「止まれ」の標識がその証拠を主張している。見事なまでに先生の主張が絵に表現されている。素晴らしかったですね。同じく水彩画部門で芸術祭賞を受賞した田辺さんの作品も、本当に素晴らしい作品でした。絵が作者の主張を私達に見事に物語ってくれるんですね。

2000年11月2日（木） ” 風邪のため、ちょっとお休みを。”

と言うわけです。「働かざる者喰うべからず。」悲しいかな、それでも仕事は休めません。11月5日の「静岡県私立大学進学相談会」を前にしておりますので、赤ら顔で今日も高校回りです。頑張って行ってきま〜す！

2000年10月31日（火） ” 静岡県私立大学進学相談会及び教育相談会、静新記事なる。”

本日、静岡新聞朝刊24面に11月5日に藤枝市文化センターで行われる「静岡県私立大学進学相談会」の記事が、そして、同22面には11月8日に東進衛星予備校藤枝駅前校で行われる「教育相談会」（県教委後援）の記事が掲載されました。共に、私共教育関連事業協同組合の主催です。日頃より当教育関連事業協同組合の活動にご理解とご支援を賜っております静岡新聞社様には大変感謝申し上げます。朝一番で参加大学からその旨のお電話を頂き、昼には高校生でしょうか、参加大学名を尋ねるお電話も頂きました。先週末には志太・榛原地区の全高校に、同進学相談会ご案内のポスターと生徒配布用チラシを宅配させて頂きましたので、本日より高校の挨拶回りを始めました。

2000年10月29日（日） ” 小学2年生の感激”

昨日、Kids愛ランド・わんぱく自然の里の活動で、久しぶりにさんかく山（藤枝市助宗）頂上の”おれっちの砦”に行ってきました。参加者は寂しいかな、小学2年生の男の子、たった1人。でも、嬉しかったですね。その子はこの日初めて参加したんですが、ほんとすごく感激してくれました。勿論私とも初対面だったのですが、本部（藤枝市南新屋）から私の車・エスティマに乗り込むや、さんかく山の頂上に着くまでの約15分程ずっとしゃべりっぱなしで、いろんな話をしてくれました。その間2度ハンドフリーの私の携帯に電話が入ると、不思議そうに聞き耳を立てたり、車が山を登り始め、窓下に急斜面が

そそり立つと、「ワアー！」と歓声をあげたり。最後の急斜面を一気に車で登り頂上に着き、眼下に広がる藤枝市内を見下ろしながら、再び感激の声。自然に感情が表れる。やはり子どもなんですね。暫く風雨に晒され、クモの巣の張った砦を二人できれいし、一部を修繕。かなづちを持つのは初めてという彼に、砦の登りばしごのくぎ打ちをやって貰いました。任されると、一生懸命やるんですね。でも、力不足でなかなかくぎが入っていかない。おまけに、なかなかくぎに命中しない。途中、かなづちは平らな面と丸い面があることを触らせて教えると、「どうして？」と聞いてくる。「くぎを打つときは平らな面、最後に丸い面でくぎの頭を埋め込んだよ。」と答えると、「そうかあ、だからさっきは、くぎの頭をうまく打てなかったんだ。」と、また感激。時折腕を振り、肩をほぐしては、やっとのことでくぎを2本打ち込んだ時の彼の顔も、またよかったですね。

2000年10月26日(木) ”静岡教室・中学3年生、1時間難問に取り組む。続編”

この問題(10月21日の日誌をお読み下さい)、結構面白く、もしかして新発見では、なんて内心ちょっと期待しながら、現実、まさかそんなことはないだろ、なんて今週の火曜日まで頑張って考えたんですが、結果、残念なことになりました。中学校でも先生がそうおっしゃってくれたそうです。結局、21日の日誌に書いた「外接円の中心が直交する対角線の交点の時」、即ち四角形が正方形か、ひし形の場合だけ対角線が直交するのですが、その他の場合は直交するように見えて実際は直交してないんですね。う〜ん、やっぱり残念。でも、先日も書いたんですが、1つの問題に夢中になって必死に取り組む姿を垣間見ることができ、正直ほっとしております。

今日も夜12時近くまで、かの国立H大学を目指すY君が、私が今日受講した東進衛星予備校生の受講ノートにコメントを書いている間中、自習室で一人で勉強しておりました。先ほど帰った同じ高3の我が息子はどうなんだろう？

2000年10月25日(水) ”東進衛星予備校豊水校見学。”

昨日10月24日、当藤枝駅前校のちょっとした改装計画の参考にと、神奈川県小田原市の東進衛星予備校豊水校を見学させて頂きました。豊水駅前という立地に、建設して間もないテナントビル2Fの28坪の教室。窓も大きく太陽の光が燦々と降り注ぐ、透明ガラスで仕切られた受付とSVL兼自習室。白を基調として明るい内装で、うらやましい限りのゆったりとした空間。まだ7月に開校したばかりとあってまだ整然としておりましたが、12インチのフラットなTVとコンパクトなビデオデッキにはうらやましさを覚えるも、ちょっと投資金額を心配しちゃいました。でも、大いに参考になりました。これから早速計画を練り直そうと思います。あくまでも、限られた予算内で。

2000年10月24日（火） ” 家庭内暴力への対応”

昨日10月23日付け静岡新聞朝刊の掲載されました、児童精神科医・森省二氏の論説は、ちょっと注目して読ませて頂きました。私も同様にご相談を受けておりますが、やはり親子の十分なコミュニケーションのようですね。振り上げた拳を降ろす術が見つからずもがく子ども。暴力を恐れ、そのチャンスを供給できないでいる親。話し合おうにもなかなか話し合いにならないようだが、やはり根気強く子どもの心を汲もうとする努力が必要のようですね。「暴力を言葉に置き換えるように導くのが心の治療」との森氏の言葉。考えてみたいですね。

2000年10月23日（月） ” 静産大「クリック・ドット・コム」に昔を思い出す。”

昨日、静岡産業大学国際情報学部・起業実習実験店舗「有限会社クリック・ドット・コム」が藤枝市駅前の商店街に開店した。同大学と県、市、藤枝商工会議所、商店街振興組合の支援を受け、同大学の学生達が自らも出資して設立、のインターネット体験、名刺・チラシ作成、HP作成や電子商取引等を手がけていくという。こんなニュースを聞くと、ほんと24年も前のことを思い出しちゃいますね。当時静岡大学2年生の私は、その春、ここ静岡の地にあって自然体験が減り始めた子ども達の教育環境を憂い、もっと子ども達主体で、もっと自然に溶け込んだ自然体験を提供すべく、その志を共にしたある外国人の全面的な出資を得て有限会社を設立し、現在の当Kids愛ランドの活動をもっと本格的にした活動を行ったんですね。最初は2,30人の会員から始まった同会社も徐々に会員が増え、学習塾をも併設していったものの、3人の専従社員と数名のアルバイト学生を抱えるには勿論それだけでは到底成り立っていきませんでした。ところが、その夏も終わりの頃、学生と外国人経営者というところに注目した朝日新聞（実はその記者とひょんなことから知り合ったもので）が、その静岡県内版に大きな記事にして取り上げて下さったことから会員が急速に増加し、やっとうまく運営していける状態になっていきました。しかし、経営はそんなに甘い物ではありませんでした。会員が増加していけば、当然にその指導者を養成していかななくてはなりません。そうした野外活動ゆえ自然をよく知り、かつ子ども達の心を感覚的に捉えてくれる指導者の養成には時間がかかるもの、私の中で経営と指導との葛藤が始まり、経営役員と運営について意見の対立が生じてきました。そこからは多弁を許さず、最終的に一取締役の私は辞表を提出し、志半ばで退社しました次第です。その会社はその後4年ほど頑張って活動して下さいましたが、解散に至っております。私はその間3年間の会社員勤めの後、その夢の実現をめざし再び現在の学習塾を設立するに至ったのです。しかし、学生であっても決して甘えを許さず、実業しながら経営を学ぶことはとてもいいことと思います。私にとってはとてもいい経験でした。理論は実践の中で学ぶもの。いや、実践あつての理論だと思います。大いに頑張って頂きたいものです。

2000年10月21日(土) ”静岡教室・中学3年生、1時間難問に取り組む。”

昨夜の静岡教室・中学3年生の数学の授業で、個別指導にも入り終わり頃、一人の生徒からこんな質問をして来ました。「円に外接する四角形の対角線が直交するのって、証明できますか?」「うん??」聞けば、学校の授業中彼の友達が偶然そんなことを見つけたらしく、先生に質問し、時間もなくその場では答えが出なかったらしいんですね。ちょうど授業も円の所でしたので、みんなでその証明に取り組むこと1時間、外接円の中心が直交する対角線の交点の時という特殊な場合では証明できたのですが、一般的な場合は来週まで答えを持ち越すことになりました。それにしても、理科の授業を潰してまでも取り組むその姿を見て、ちょっと嬉しくなっちゃいましたね。ただ、時間内に答えが引き出せず、それは悔しい限りです。なんとしても来週火曜日までに答えを出さねば。

2000年10月20日(金) ”「つきんなか」、頂いちゃいました。”

ご無沙汰致しました。いつだったかな?この日誌で、宮崎県西都市の岩倉さん製造のさつま焼酎・「月の中」(つきんなか)のお話をしたことがありました。そうしたら、この日誌をお読み頂いておりますある方が、先日ちょっとご相談に来られた際、その話が出まして、「この近くでその焼酎を置いてあるお店、ありますか?」と聞かれ、「〇〇〇さんに置いてあります。実は、その方から勧められもので。」なんて言いましたら、なんと昨日、その相談のお礼にと、その「つきんなか」を頂いちゃいました。ホント、ありがとうございます。何か申し訳ありませんでした。昨日は私、早朝より相良の方に出かけておりました、また昨夜も帰宅が深夜に及んでしまいましたので、お礼も申し上げられず、こんな席で御礼のお話をさせて頂き、大変失礼を致します。ご相談のお子さまの件、確かに承りました。今日は今日で、今から組合の用事で浜松です。またお電話致します。

なんて、今日は日誌を伝言板代わりにしちゃいました。

2000年10月17日(火) ”NPO「静岡県教育フォーラム」設立申請”

10月6日の日誌でお話ししましたが、私達も遂に特定非営利活動法人(NPO)「静岡県教育フォーラム」の設立総会を、来る10月21日(土)午前10時より、藤枝市文化センター会議室で行うことになりました。既にお話ししました通り、この「静岡県教育フォーラム」は、これまで当オープンスクールゼミや教育関連事業協同組合で行って参りました、不登校児童・生徒の対応・カウンセリングや教育相談会(静岡県教育委員会後援)、心理カウンセリング・交流分析講座、あるいは私立高校進学相談会等を、既に数社もしくは数人の方々からお申し出頂いております会員・賛助会員の皆様のご支援の元により責任もって行っていくべく、設立に至ったものです。

詳しくは設立総会后、改めて話したいと思います。本日はここで失礼しますが、そのためまたここ1,2日日誌をお休みさせ頂きます。宜しく願い致します。

2000年10月15日(日) ” どうしてTVゲームに走る？ ”

こんなテーマはもう陳腐なテーマかもしれませんね。” どうして今の子ども達は外で遊ばない？” というテーマの方がいいかな。勿論、もう答えは出ているかもしれませんが、再びこんな事を考えてしまう今日この頃です。

本日は日曜日ですが、静岡教室は朝から中学部の中間テスト勉強会。まだ寝静まっている我が家で、私ただ一人今から出勤です。「行ってきま〜〜す！」・・・ホームページの日誌に向かってこんなことを言って出かけるのも寂しいものですね。

2000年10月12日(木) ” 決まっていく有名大学指定校推薦 ”

「先生、〇〇ですが、この度は大変お世話になりました。いやあ、お陰様で娘の大学指定校推薦が決まりました。H大学法学部政治学科なんですが、・・・」 と、ほんと喜びに充ちた声でした。嬉しいですね、こういうお電話は。

と思いきや、昨日は高3のS君が当東進衛星予備校藤枝駅前校に入って来るや、本を読んでいた私の元に来て、力のない小さな声で(近くに中学校時代の同級生が勉強していたせいもありますが)

「先生、ちょっと大変なことになってしまったんですが・・・」

「うん？ どうしたの？」

「いやあ、それが今日、W大〇〇文学部の指定校推薦をもらっちゃったんです。」

「なに！？ そりゃあすごいじゃない。よかったんじゃないか。」

「でも、もしだめだったら、ショックが・・・」

「うんなことないよ。今までの勉強の結果が認められたんで、大丈夫。自信を持って受けなよ。」

先日も、Y大学法学部とT大学経済学部に2人の男の子の指定校推薦が決まったばかり。ぞくぞくと出てくる有名大学指定校推薦決定の朗報にこのところ頬が緩みっぱなし。さあ、これからが本当の勉強。どうかな？ 気が緩むかな？ との心配は無用。決まった生徒達はみんな、ホント今まで以上に勉強に身が入っております。いやはや生徒を信頼しきっていない自分に反省です。

(2000年10月11日付けの「子どもの求める愛」は、同じタイトルで「小さな人間たちの詩」に移しました。ご了承ください。)

2000年10月10日(火) ” 懐かしい卒業生の動向 ”

本日午後5時半過ぎ静岡教室で、中学1年生の女生徒とそのお母さんの突然の訪問を受けた。” あれえ〜？ どこかで見たような顔。う〜ん、誰だったかなあ？ ” と考えておりましたら、「〇〇友見の妹です。お久しぶりです、先生。」とお母さんに挨拶され、「いや〜！ そうですか。懐かしいですね。」 ホントびっくりしました。かれこれ8年前の当スクール静

岡教室中学部の卒塾生の妹だったんですね。お母さんがおっしゃっていましたが、妹も小学校の高学年になってきたら、顔つきがだんだんお姉ちゃんに似てきたとのこと。ほんとお姉ちゃんの面影がはっきりと残ってありました。そのお姉ちゃんの勧めもあり当スクールに入塾したいとので、一通りの説明をさせて頂き、今週の金曜日から通塾することになりました。そこで、お母さんにそのお姉ちゃんの動向をお聞きしましたら、今年で23歳、結婚して清水に住んでおり、来春お子さんが生まれるとのこと。お母さんも嬉しそうに話してくれました。授業の前でほんとは少ない時間の中お話しさせて頂きましたが、こうして卒塾生の妹や弟までもが当スクールに通ってくれるのは、私達の指導を認めて頂いた証でもあり、ほんと嬉しいものですが、それ以上にもう何年も経っても当スクールのことを覚えて下さっていることが嬉しかったですね。（そう言えば、昨年卒塾生からその子どもの入塾の相談がありました。その時はまだ早いからいいよって言いましたが、もうそんな時代になったんですね。）授業後、壁に貼ってある卒塾生の寄せ書きの色紙を見ましたら、ちゃんとそのお姉ちゃんの寄せ書きがありました。

2000年10月9日（月） ” 地元・静岡県内の大学を育てたい”

なんて、随分生意気なタイトルを書いてしまいましたが、実はこれは私の本音です。確かに私は金谷町に生まれ育ち、地元・静岡大学を卒業後、結婚と同時に高校時代を過ごしたこの藤枝の地に居を構えて20年、静岡県を出たことはありませんので、こんな事を言うんですが、この静岡県には数えて12の4年制大学と5つの短大があるんですね（当時）。三百数十万人の静岡県にすれば、大変な数の大学だと思います。ところが、大学入試指導を始めてかれこれ16年の間、静岡県内の大学入試の動向を見てきましたが、残念ながらこのところは少子化の影響で、県内の大学の入試合格偏差値は一部の大学除いてはレベルダウン気味、残念な状況になっております。「頭脳の中央集中型」なんて言い方もできるくらい、若者はとかく首都圏志向なんですね。

確かに都会に出たの自炊生活も自立には大変役立っておりますが、このところの不景気にはその生活を支える親御さんのご苦勞も大変なものです。高3の息子を持つ私も考えてしまいますね。それもそうですが、それよりまして地元の大学に優秀な人材が残らない、いや優秀な人材が育たないのも大変残念です。このところは通産省の助成金も得て産学共同事業も行われ、ここ静岡でも大学が地元で根付き始めております。勿論、静大工学部は開学以来地元企業の支援を得てしっかりと地元で根付いており、”静大の一キャンパス化”を阻んできております。そう言えば、当ホームページ・静岡オープンスクールの頁をご覧になると分かりますが、当スクールも協賛しております、当教育関連事業協同組合理事長（当時）の（株）学習企画社と静大教育学部との教材の共同開発もそうなんですね。「地方の時代」と叫ばれてどのくらい経つのだろう。財政難と大学の自治とで揺れる「国立大学の特殊法人化」も、ある意味では「地方の時代」の一つの方向かもしれません。もう10数年にもなりますでしょうか、文部省は財政難ゆえ国立大学の地域運営化を打ち出したこと

がありました。勿論、まだ内部的な情報でマスコミも取り上げませんでした。例えば中部地方の国立大学は中部地方各県で運営するという方向でした。言ってみれば”中央の借金を地方が負う”的な方向で、勿論のこと異論を唱えたいんですが、前述の大学の地域密着化の方向は大いに賛同したいと思います。そして、大学は”受験勉強の癒しの場”でなくして、”学問の府”としての権威を持ち、マルクスを、またケインズを熱く議論し合い、夜遅くまで実験に費やす日々を送る、そんな学生達を育てて頂きたいと思うんですね。

そんな思いもあって、来る11月5日(日)、藤枝市文化センターで、静岡県内の私立大学の入試担当者の皆さんにお越し願って、来場して来た志太榛原地区の高校2,3年生に、個別に各大学の紹介と2001,2年大学入試の説明をして頂く、教育関連事業協同組合主催「静岡県私立大学進学相談会」を開催致します。宜しくお願い致します。

(と、なんか宣伝めいた日誌になってしまいました。ごめんなさい。)

2000年10月5日(金) ”いよいよ当教育関連事業協同組合もNPO設立”

当教育関連事業協同組合で約半年に渡って準備してきたNPOも、いよいよ今月の21日、設立総会を開くことになりました。私達がこれまで行ってきました不登校児童・生徒の相談や対応、また心理カウンセリング・交流分析講座、さらには、私と同じ藤枝市のマイティー進学院の林先生が中心となって行ってきました「志太区進学相談会」は、今後はこのNPOの事業に移管し、協賛企業会員や個人会員の皆様のご協力の下、しっかりと根を張った活動を行っていこうと考えています。なぜNPOなのか？ここで、私が担当する部門だけに絞ってお話ししたいと思います。

もうかれこれ15,6年にもなりますでしょうか？本ホームページ「小さな人間たちの詩」の第1話に登場するある少年のことをきっかけに(実はこの物語も約15,000字ほど書き上げてあるんですが、こちらに移すのも時間が無くて)、私もこれまで実に様々な子ども達と関わってきました。勿論、ただ一介の塾長がやってきたことで、さして立派なことをしてきたわけでもありません。ただただ彼らの話を聞き、ふんふんと頷いてただけなんです。ところが、この5,6年前から不登校の相談が入ってきて、”40の手習い”ではないが、私も本格的に心理カウンセリングの勉強を始め、見よう見まねでそうした子ども達と対応してきました。しかしながら、本業の学習塾と予備校の経営が多忙を極め始め、ましてや昨年は娘の小学校のPTA会長なんぞを受けざるを得なくなり、小規模塾ゆえまだまだ第一線で教えながら、仕事を終えた深夜から不登校児童・生徒の対応やPTA活動を考える毎日、まともに布団の中で寝たのはこの1年半余りの中でほんの数日しかありません。当該児童・生徒の対応を考えるに、ご両親のお話ばかりではなく、当該生徒が籍を置いております学校にも情報を求めることもあり、勿論のこと、この間学校からのご相談もかなりの数ありました。そこでかかる交通費等の経費はすべて勿論、当静岡オープンスクールで負担してきましたが、こうした活動をマスコミが取り上げて頂いたお陰で、1昨年程前から藤枝市内に事務所を構える数社の社長様からそうした活動にかかる経費にと賛助金の申し出を

頂き、このところの活動に大変助かっております。こうしたことから、今後も広く協賛企業会員や個人会員の皆様にこうした活動を支えて頂きながら、しっかりした知識と技量を身につけながら責任を持ってこうした活動を続けていくべく、NPO設立に至ったのです。皆様にも是非ご支援頂ければ幸いです。宜しくお願い致します。

(2000年10月1,3,5日付けの「ある小学生のお話」は、同じタイトルで「小さな人間たちの詩」に移しました。ご了承ください。)

2000年9月29日(金) ”世間は広いようで実に・・・”

このところびっくりする事が2つほど続きました。26日火曜日の夜、当校と同じ東進衛星予備校の島田駅前校校長先生より突然電話を頂き、「もしもし、島田駅前校の平野です。この度は一緒に名入れの”キズテープ”を作って頂き、ありがとうございました。今後とも宜しくお願いします。」とのこと。うん??どこかで聞いたことのある元気のいい声。ひ・ら・の・先生?うん?東進衛星予備校磐田見付校を最初に開校し、お住まいが磐田と聞き、もしかして……。早速東進衛星予備校本部のエリアカウンターに尋ねたころ、びっくり。私が大学を卒業し、入社した静岡ミサワホーム(株)(現(株)ミサワホーム静岡)で最初に配属された課の係長だった平野さんだったんですね。まあ、本当に驚きまして、すぐにこちらから島田駅前校にお電話しましたところ、間違いなく平野係長(当時)だったんですね。私は学生時代に会社を設立して教育事業を手がけた夢を忘れられないで、静岡ミサワホーム(株)を僅か3年と3ヶ月で退社し、当スクールを開設して現在に至っておりますが、平野さんは当時、静岡ミサワホーム(株)のトップセールスマン。新卒入社この私を大変かわいがって頂くも、早々営業課長に昇進し、(株)ミサワセラミックホーム静岡・浜松営業所所長等を歴任し、退社。ミサワホームのホームिंग会社設立を経て、現在は磐田・島田・焼津各市に計4教室を運営していらっしゃるとのこと。ほんと、懐かしいお声でした。

そんなことがあって一昨日27日、当東進衛星予備校藤枝駅前校にて私達、12程の学習塾で組織しております教育関連事業協同組合の理事会後、菊川町のゆう学習塾・東進衛星予備校菊川校の平塚先生とお話ししている中で、平塚先生が私と同じ静岡大学人文学部法経学科法学専攻卒で、平塚先生がまだ学生の頃、前述の静岡ミサワホーム(株)に入社したばかりの私と、ある飲み会で同席したことが会ったことが分かり、これまたびっくりしました次第です。ほんと、世間は広いようで、何らかの形で繋がっていることがあるものなんでしょうね。

2000年9月26日(火) ”深津敏夫・静岡県サッカー協会特任理事、ご逝去。ご冥福をお祈り致します。”

一昨日の夜、知人より深津敏夫・静岡県サッカー協会特任理事の訃報を頂き、余りに突

然のこと、深い悲しみに陥っております。交通事故による出血性ショック死とのこと、享年 60 歳でした。思い起こせば、もう 6 年も前のこと、ただただサッカー観戦好きが興じて当時の藤枝ブルックスの新聞を作り始めたこの私に声を掛けて下さり、たまたまこの私が氏の出身校・藤枝東高校の後輩だったことから、それ以来こんな私をもかわいがって頂き、大変お世話になっておりますところでした。氏は、藤枝東高校サッカー部で活躍し、静岡県サッカー協会役員を歴任され、同協会の発展に多大な貢献をなされました。ご冥福をお祈り致します。

2000 年 9 月 23 日 (土) ”世はシドニー。なのに・・・”

ホント久しぶりの日誌となります。世の中はシドニーオリンピックに沸いているのに、悲しいかな、私、毎日一人忙しくセコセコと働いております。うんもう、なんでこんな時期に、前期中間試験や 2 学期中間試験があるんだろう？中小塾の運命か、少人数なのに塾生が様々な中学校や高校に通っておりますので、その中間試験も一斉に始まらない。来月の半ばまでだらだらと続くのであります。従って、この忙しさも同じようにだらだらと続くのであります。おまけに、お陰様で 2 学期から入塾生も相次ぎ、教材の手配や受講開始準備にあくせくしております。こんな調子で大好きなサッカー観戦も、結果を知らずに試合のビデオを見たくとも、ご親切に「お父さん、勝ったよ。」「負けたけど、スロバキアが勝ってくれたんで決勝トーナメントに行けるよ。」と、にこにこ顔でそのビデオを渡してくれる女房。まったく、人の気も知らないで。だから、見ても緊張感がなく、ついウトウト。ブラジル戦なんか、深夜 4 回も見直してしまいました。お陰であるアレックスの見事なヘディングシュートだけは、やに鮮明に脳裏にこびりついております。ビデオを頭出しすると、すぐにあの得点シーンなんで。今夜も日本対アメリカ戦。なのに、地元の中学の中間試験 (9/25) 直前。あ～～～あ。本日も祝日にも拘わらず、朝 8 時半から本部藤枝教室、東進衛星予備校藤枝駅前校、ともに勉強会のため全面開校であります。さあ、頑張ろう！明日は壮年会のソフトバレー大会。明日も。

2000 年 9 月 17 日 (日) ”喰処一ばあ 幸”

塾のホームページには誠に不謹慎なタイトルですが、先日このお店を設計した若者のお誘いを受け、数人の知り合いと一緒にやってきた。店構えと言ひ、料理と言ひ、素晴らしかった。古い民家の梁や格子戸と使いながらも、様々に変わる外の光をふんだんに取り入れるべく、切妻の部分に大きく三角形の透明ガラスをはめ込み、独自に開発した陶器塗装をした 1 間×3 間程の大テーブルを使って、掘り炬燵式に仕上げ、陶器塗装仕上げのカウンターも掘り炬燵式、実に落ち着いて料理と地酒を楽しめる。その料理も、船元の父親から仕入れた新鮮な海の幸を見事に調理してあった。とても 20 歳の店主・娘さんの料理とは思えない。これから更に経験を積んでいけば、ますます料理も楽しみなお店である。皆さんも是非行ってみて下さい。

(2000年9月15日(金) ”ある高校3年生達の会話”は「小さな人間たちの詩」に移しました。ご了承ください。)

2000年9月11日(月) ”お話ししたいこと山ほどあれど、ちょっと忙しく暫しお休みを”
と言うわけです。すみません。この秋、新たな展開も計画しております、このところは日誌もお休みがちになっておりますが、ご理解下さいませ。我が家はこのところ、まさに”亭主は元気で、留守がいい”そのままの状態です。たまにはソファーでなく、布団で寝てみたいものです。

(2000年9月5日(火) 8日(金) 14日(木) の”ある生徒との話”は「小さな人間たちの詩」に移しました。ご了承ください。)

2000年9月2日(土) ”親の安心感と子どもの自主性 後編”

我が家の第1子・長男(高3)と第2子・長女(中3)の学習面を見るに、まさに本テーマそのものである。私、即ち親の安心感のため、長男は小学校4年生頃から私の主宰する”数楽クラブ”に参加させては数学の基本原則を教え、中学生になるや世間では自分の子どもを自分で教えることは難しいと言うが、私は本人の意向も聞かずにそのまま私の授業に参加させ、他の生徒と同じように指導してきた。その間、長男にとってみればそれまでは自分だけの父親だった私が、彼の同級生も一緒に指導するようになり、父親と先生との葛藤に悩んだこともあった。私もやや彼の自主性を阻害してきた反省から、昨年夏の東進衛星予備校の導入に伴い、彼の直接の学習指導は衛星授業に委ね、彼にとっての父親に戻った(つもりである)。一方長女の方は、第2子の要領か、長男が参加した”数楽クラブ”は自分の興味と関心でその都度参加を決め、児童会役員を受けながらも附属中学受験も自分で決め、そのための勉強も私にそのテキストの選定を依頼し、時折私に質問することはあっても、基本的にはそのテキストの詳しい解答解説を元に独力で勉強して合格を勝ち取った。しかしながら、この間精神的なストレスが元で食欲不振(拒食症に近かったが)に陥り、心療内科にお世話になるに至ったが、それも受験を乗り越えれば解消し、現在も基本的には自分で勉強しており、相変わらず時折私の机の中の教材やプリントを失敬してはその勉強に役立っている。この夏期講習は長女は私の授業を受け、しかも時折静岡・藤枝両教室にまたがって受けていたが、長男はその相談に応じて私の提案した衛星授業は受けたものの、自分のペースでほぼ1ヶ月半の夏を過ごした。「子どもに任せるっていうのは、親として大変勇気がいるが、それは本当に子どもを成長させるんですね。」と言われたある母親の言葉が思い出される。ここでその母親のお話をしたいのですが、今日はこの辺で、いづれまた。

2000年8月31日(木) ”いよいよ夏休みも最終日”

いよいよ今日は夏休みの最終日。毎朝8時に東進衛星予備校藤枝教室を開け、9時静岡オープンスクール本部藤枝教室で中学3年生の授業。昼に再び藤枝駅前教室に顔を出し、午後は静岡教室で中学生や高校生を指導して、夕方再び藤枝駅前教室か本部藤枝教室に戻り、高校生や中学生を指導。猛暑の中、そんな過酷な生活も今日が最後である。本日は朝一番に決算書類提出をしてからは、藤枝駅前教室と本部藤枝教室にて中学生と高校生の質問指導。これも最後の難関である。本音を言わせて頂ければ、こうした質問指導より、ほんと授業指導の方が教える側にしてみれば楽なんですね。授業は教える内容が分かっていますから、事前に準備ができる。それに比べ、質問指導は勿論のこと、事前にその内容が分からない。中学生はいいんですが、問題は高校生。お陰様で多くおります某有名国立大学や同私立大学志望の”強者ども”が、9月2日から始まる実力テストに備えて一生懸命に勉強をしております故に、彼らが分からないという質問はほんと楽ではない。数年前、殆ど毎日数題から10数題台(日によっては20題を越えることもあった)の質問をしてくる生徒がおり、こちらも悪戦苦闘したが、当時は生徒数を1学年5名と絞っていたので良かった。しかし、この頃は一人の生徒の質問数こそ減ったが(いや、生徒が遠慮してるのかな?)、生徒数が違う。お陰様で1学年5名には絞りきれず(東進衛星予備校と提携したのもそれが原因である)、ちっぽけな塾ながら高校3年生と高卒生に至っては40名を越し、50名に向かっている。私も息子と同じ学年か一つ上の生徒達であり、息子、娘達が一挙に増えた気分である。でも、その一人一人の顔や体つき、性格までも書けるくらいに把握することを自分の信念としてきている。

あ!もう8時を回ってしまった。ゆっくり日誌なんて書いてられない。っさ、頑張ろう!

2000年8月28日(月) ”遊べない子どもたち—8/28付け静岡新聞朝刊記事”

夏期講習もいよいよ終盤。決算の忙しさに加えて、欠席した中学生の補習と高校生の夏休みの課題の質問攻めでちょっとバテ気味。日誌も休みがちで大変申し訳なく思っておりますが、こちらも頑張っていきたい(と、意気込むものではありませんが)。

「遊べない子どもたち」一例によって静岡新聞朝刊の毎週月曜日連載の児童精神科医・森省二先生のお話である。先生同様に、私も最近遊べない子どもたちが増えていると思う。ファミコン、TVゲーム、プレステと企業の産み出す商品戦略に乗られ、「ひとり遊び」が広まり、けんかも痛さを感じない、ビジュアルな”疑似けんか”となっている。日中、深夜と遊び回っている少年、少女達の、お互いを支え合う、貧しい「空騒ぎ」。ここでも何度か書いてきたが、やはり家庭でのコミュニケーション不足なんだろうか。先生のおっしゃる通り、子ども達は同世代の子ども達とのあつれきや葛藤の中で心の温かさや痛さを感じながら、自己と社会の存在を認識し、成長していく。この夏休み、自分の目標に向けて、朝早くから夜遅くまで一生懸命に勉強している子ども達。時折、なかなか覚えきれない、

なかなか解けない自分に憤りを感じながらも必死で奮起し、お互いの勉強を励ましながら、教え合う光景を見ていると、冷え切った部屋の中で何かほの温かさを感じる。これもひとつの「遊び」なんだろう。

2000年8月25日（金） ”親の安心感と子どもの自主性 前編”

例によって決算資料点検のため、昨日は楽しみな日誌もお休みしてしまった。すみません。この時期になるとまれにこんな話がある。

「同じ様な学力の子達と競わせたい。」その多くはかなり学力のついた（あるいは、ついでに）生徒のご父兄の話である。ところが、そんな生徒達ほどそれぞれの生徒達の疑問にも十分に答えてくれ、満足感の得られる授業を望む。少子化で我々学習塾業界は厳しい冬の時代を迎えている。そんな時代にあって、悔しいかな、大手学習塾はその知名度と宣伝力で一部に相当数の生徒を集めているようだ。

ところが、ちっぽけな塾の悲哀か、我々のように個々の生徒達とのコミュニケーションを大切にし、ひとりひとり生徒達に対応しながら、確実な基礎力と豊かな応用力の修得を指導している中小の学習塾は、指導者側のそんな思いとご父兄の思いとが空回りしてしまうことがある。理想論と現実論の違いだと思われることもあるが、どちらも現実論であり、私も今年はなんと小6、中3、高3の子を持つ親、最終的な思いは同じだと思う。

当スクールはテスト結果で見るとは、確かに様々な学力の生徒達がいる。勿論のこと、同じ生徒でもテストによって様々に変化し一概には分けられないので、当スクールでは学習目的と学習内容でグループ分けしている。静岡オープンスクールとオープンスクールゼミの区別がそれである。勿論、両スクールにまたがって通う生徒もいる。「同じ様な学力の子達と競わせたい。」と言うよりは、言ってみれば「同じ学習目的の生徒達の中で競い合っている。」（「競い合う」という言葉は余り好きではないが。）

2000年8月23日（水） ”受験勉強・夏の陣”

夏休みもいよいよあと1週間。当スクール及び当校、当ゼミの夏期講習もいよいよ終盤に入ってきた。本日も私は午前中本部藤枝教室で中学3年生の夏期講習、午後は静岡教室の中学3年生の夏期講習、続いて再び藤枝に戻って、東進衛星予備校藤枝駅前校で中学生及び高校生の夏期補習をこなしてきたが、最後の藤枝駅前校では自習室で勉強する生徒達も加わり、満杯だった。それこそ靴を入れる下駄箱もなく、沢山の靴が玄関に並ぶほどだった。満杯の教室でも聞こえる音は、個別指導するスタッフの先生と私の声と、鉛筆を走らせ、ノートやテキストをめくる音だけ。みんな、しんと張りつめた空気の中で黙々と勉強に打ち込んでいた。あのJ君も今日も来て数学にも励んでいた。某Jクラブチームのジュニアユースに所属しており、遠征もあってようやく夏期補習に参加した中2のI君も、いきなりの3時間の勉強に頑張った。高校3年生達は必死だ。2学期開始早々に課題テストもあり、私も1週間前から本格的な質問責めに合い始めている。2台の大型エアコンも必死

で 3 つの部屋の空気を冷やし続けているが、人の熱気にやや負けそうになっている。毎年の光景ながら、私ははや来春の合格祝賀会を考え始めていた。18 年もの間、一つの目標を達成した時のそれぞれの笑顔を見続けてきたが、一つとして同じ笑顔はなかった。それぞれにいろんな思いを含んだ笑顔だった。そんな笑顔が我々のエネルギーなんですね。

2000 年 8 月 22 日 (火) ” J 君に変化あり”

このところ中学 2 年生の J 君が、大変意欲的に勉強に取り組むようになった。今日も取りかかりこそ遅かったが、苦手意識が強く、とにかくこれまでその勉強を拒否し続けてきた英語を、個別指導の先生の指導を仰ぎながら一生懸命やっていた。最後に私のところに数学を聞きに来た時の彼の表情は、ホント生き生きしていた。その事を誉めてあげたが、益々彼も明るくなっていった。私も嬉しかった。ここで彼について余り詳しくはお話しできませんので、皆さんには普通の、ただ勉強ができない生徒の話と思われると思いますが、実は彼にとってこうしたことは大変な変化なんです。たまた今日は明日の中 3 の夏期講習の準備でこれしか書けませんが、また彼についてお話しします。おやすみなさい。

23000 年 8 月 21 日 (月) ” 暫しのお休み、失礼しました。決算もようやくメドが。”

おはようございます。暫しのお休み、失礼しました。昨夜、というより今朝早くに決算もようやくメドが立ち、日誌再開となりました。途中何回かお休みを頂きましたこの日誌も、なんだかんだと書きながらももう 2 ヶ月を過ぎました。思いのままに楽しんで書きながらも、結構自分のためになっているんですね。勉強になります。また、こんな拙い文でも毎日読んで下さる方がいらっしゃると思うと嬉しくもなります。時は「24 時間テレビ」も終わり、いくつか感動させられるお話もありました。自分のために一生懸命生きている姿は素晴らしいですね。今後とも宜しくお付き合い下さいませ。

2000 年 8 月 18 日 (金) ” 「少年の犯す殺人事件」(静岡夕刊) に思う。”

8 月 7 日付け静岡新聞夕刊に掲載された、児童精神科医・森省二氏の「確かさと危うさと一精神科医がみた子どもたち一少年の犯す殺人事件」と題する論説にちょっと触れてみたい。悲しいかな、ご存じの通り、この 14 日の未明にも大分県野津長町で、15 歳の県立高校 1 年男子生徒が、好意を寄せていた高 2 の女生徒の一家 6 人をナイフで刺し、3 人を死亡させ、その女生徒を含む 3 人を重傷にさせるという事件が発生してしまった。その事件を報じた 8 月 15 日付け静岡新聞夕刊夕刊には、高橋紳吾・東邦大助教授(犯罪心理)が、「その家族に対する被害妄想的な恨み」から、「この一家を無くしてしまえば、抱えている問題のすべてが解決すると考えたのかもしれない。」「ゲームなどにあるリセットを連想させる」「皆殺しの発想だ。」とコメントしている。

森氏は、少年たちが衝動に任せて殺人を犯す心理を、次の 3 点に要約して論じている。即ち、第 1 は、思春期の衝動性の高まりから、小学校年齢で既に獲得しているはずの善悪

の判断が抑止力として働かなくなり、キレてしまうからである。第 2 に、大人社会の表裏が複雑に入り組み合う対人関に矛盾を感じ、自分中心の単純な公式とゲーム感覚で捉えようとするからである。第 3 に、独りよがりの考え（妄想）に支配されたからである。テレビゲームやインターネット・コミュニケーションも、そんな独りよがりの世界を膨張させる。上記の高橋助教授の弁はこの第 3 点を指摘している。

私は、「小学校年齢で既に獲得しているはずの善悪の判断が抑止力として働かなくな」る背景に、幼児教育の不十分さ、小さい頃からのコミュニケーション不足、人間関係不足を感じるが、どうなんだろうか？現在、中高校生を持つ親の世代は、我々の世代である。生まれが昭和 20 年代後半から 30 年代であろう。青春時代に高度経済成長期を過ごし、物質文明には恵まれ、核家族、学歴社会の中で勉学中心、仕事中心に生き、ふと家族のふれあい、暖かさを忘れて来てしまっていないだろうか？「子どもの教育は女房任せ」と公然と明言し、「男は仕事に生きる」なんて、仕事は男の勲章のように思ってきてはいないだろうか？十分な親子のコミュニケーション、同世代の子ども達同志の十分なコミュニケーションがあれば、善悪の判断も育ち、体の痛さのみならず、心の痛さも感じられ、充分抑止力として働くのではないだろうか？それこそテレビゲームよりは、友達同士での行動的な遊びに興ずるのではないのだろうか？それこそ「となりのトトロ」のような田園風景のいなかに育った私には、今日の子供達の世界を見聞きするに、そんなコミュニケーション不足を強く感じるんです。

2000 年 8 月 17 日（木） ”十分に休養してきました。日誌、再開します。”

おはようございます。お久しぶりです。8 月 14 日（月）から昨日 16 日（水）まで長野県富士見高原&原村に、家族で”避暑”旅行に行ってきました。持ち込みそうになった決算書類は、14 日の早朝までにとりあえず点検を完了。出がけに税理士事務所に書類を届け、はれて完全なる休暇旅行となりました。ほんと久しぶりにのんびり温泉を楽しみ（あ！そうです、私と一字違いの一どうでもいいことですが、一、あの山下泰裕・五輪男子柔道監督とそこ一鹿の湯一でばったり会っちゃいました）、地酒三昧。夜 10 時過ぎには、高いびきで就寝。翌朝早く、ひんやりする長野の朝を楽しみながら散歩。長女のたつての希望の清里・清泉寮のアイスクリームを食べに行き、「やっぱり丸子（静岡市）の熊ちゃんアイスクリームの方がおいしいや。」なんて、清泉寮の皆様にはたいへん失礼な事を言いながら、原村へ。家族が近く自然公園でパターゴルフを楽しんでいる間、一人ペンションで高校野球を見ながら、野沢菜つまみに今度はビール三昧。ラッシー君とついうトウト。早いお風呂を済ませ、夕食。2 晩ともペットも泊まれるペンションでしたが、2 番目はみんなワンちゃんも同席。ゴールデンレトリバーにラブラドルレトリバー、ミニチュアシュナウザーと、うちのシェットランドシープドッグ。みんなご主人達が夕食を楽しんでいる間、おとなしく（おいしい夕食がうらやましく？）じっと我慢。でも、いいですね、ペットを飼っている家族にとっては。楽しい夕食でした。その後、長男に 200 円で全身マッサージ

をして貰い、今度は 9 時過ぎ就寝。いやあ、よく寝ました。寝過ぎて腰が痛くなっちゃいました。翌朝早く近くの” うわさの” 朝市に行くと、既に多くの車で駐車場が一杯。まだ店も開いていないのにも思ったら、6 時に一斉にそれらの車が動き出し、店作り。みんな朝市のお店の車だったんですね。近くのペンションの皆さんに迷惑にならないように、6 時から店を開くとの取り決めになっているとのこと。その内に続々と観光客も表れて、大賑わいの朝市でした。帰路、白州のサントリー蒸留所を訪れ、残念ながら運転のため試飲は我慢。貯蔵所のあの強烈なウイスキーのいいにおいはまだ残っております。静岡で運転御礼に冷酒を飲ませて頂きながら、カニ雑炊。ほんといい休養の 3 日間でした。

2000 年 8 月 13 日（日） ” 夏休みのため 16 日まで日誌もお休みします”

今日は当校出身の大学生とこれから大学生を目指す生徒達との交流会。東進衛星予備校藤枝駅前校にて昼、お好み焼きパーティーを行った。大学生の K さん、H さん、I さん、N 君、H 君と、これから大学生を目指す M さん、T 君、W 君に、A ちゃん（我が娘、中 3）と私の 10 名。ホントに楽しかったですね。ホント今日はそのことについて皆様にお話したいんですが、例によって今決算資料の点検を行っており、できそうにありません。明日からの 4 日間の夏休みも、決算資料&パソコン持ち込みの休日で、どうも休みにはならないようですね。それゆえ、楽しみのこの日誌も 4 日間お休みさせていただきます。すみません。17 日にお会いするまでお元気で。

2000 年 8 月 11 日（金） ” Y 君、M 君、K 君の粘り”

先ほど 11 時半過ぎ、ようやく東進衛星予備校藤枝駅前校のシャッターを降ろした。夏休み入ってから連日の時間延長。昨日もシャッターを降ろしたのは、12 時過ぎだった。

「先生、今日 11 時過ぎちゃうけど、いい？」—（エッ！11 時過ぎ?!・・・そうか、Y 君は先日 8 月 2 日から 4 日まで遠路、某国立大学の A O 入試説明会とオープンキャンパスに参加、加えて懲りずに部活（サッカー部）を続けており、この地区で行われております〇〇杯に参加して優勝、そんなこんだでこの 1 週間休みだったんだ。仕方がない・・・）

「いいよ。先生も仕事してるから。」

お陰様で昨年の 2 倍半の生徒数になった当校も、このところ高校 3 年生が勉強に燃え始め、個別衛星授業（SVL）と自習室開館が時間延長続きなんですね。今日も私が今日受講した生徒の受講ノートへコメントを書き、明日受講する生徒の SVL をセットしている間、Y 君のみならず、同じ高校の M 君と K 君までも自習室で勉強していた。明日は、夏期講習前半最終日。翌日、今年大学に合格した生徒達と高校生達との交流会。当校でホットプレートでお好み焼きや焼きそば、クレープを作りながらみんなでお昼と過ごして、翌日から 17 日まで当校は夏休みになる。そんな訳で、明日は朝から受講予約で一杯。

「僕は化学に燃えている。」

「暫し受験を忘れて英語を楽しんだ。」

受講ノートにそんな書き込みがある。受験地獄、学歴社会と様々に言われるが、長い人生、一つの目標に向かって必死になる、そんな時期があってもいいじゃないかな。思い出になる。

2000年8月9日(水) ”少年の犯す・・・について、と思いましたが、業務多忙につき、再びお休みします。”

毎週月曜日かな？静岡新聞夕刊に児童精神科医・森省二氏が連載しております、「確かさと危うさと一精神科医がみた子どもたち」と題する論説は毎週楽しみに読んでおります。その8月7日付けの論説に、「少年の犯す殺人事件」と題する興味深い内容が書かれておりました。今日はそのことについて書き留めようかと思いましたが、時は既に朝。6月決算と夏期講習のため業務も多忙を極め、そんな余裕がなくなっていましたので、少し日誌もお休みします。皆さんも是非この記事をお読み下さい（その記事を読める環境にありましたら）。皆さんでまた考えましょう！

2000年8月8日(火) ”若者の規範感覚を考える。その3”

「人は人、自分は自分」という高度消費資本主義の原則が貫徹し始め、自分は自分という感覚が領域性を帯び、現代の若者の新しい規範感覚の基準が「自己領域に侵襲的か否か」に移ったと、芹沢氏は言う。敗戦により戦前の厳しい規律教育、軍国主義教育から上からの（外からの？）教育の民主化が断行され、高度経済成長が進み、核家族化、個人主義が浸透し始める中、テレビの普及によるマスメディアの発展が若者の規範感覚の変化に大きく影響を与えてきた。古くは「だっこちゃんブーム」に60年代のミニスカートの流行、フォークソングの広がりやビートルズに端を発した長髪の流行。しかし、近年はその広がりも早く、次々と流行も変化する。ルーズソックスに紺のハイソックス、ミニスカートの再来とボディコン、茶髪にピアス。ポケットベルと思えば、すぐにPHSと携帯に。個性的と言いながら、没個性を感じるこの流行。権力への抵抗、画一化への抵抗と言いながら、打算的に感じる行動。そんな中、いじめと自殺、援助交際にバタフライナイフ、少年犯罪の続発。その「規範感覚」は理解を越える。確かに氏の言われるように、現代の若者の規範感覚は「自己領域」に移ってきている。さて、そこにおいて「規範」とは何なんだろうか。「公共性」をどう捉えるのだろうか。そもそも「規範」とは、「公共性」とは何なんだろうか。この機会に若者達を交えて議論してみたい。

2000年8月7日(月) ”夏祭り”

昨日は町内の夏祭り。午前中急用のため静岡教室に出向き、昼帰宅。真夏の暑さにビールを一杯飲んだら、昼食後うとうと寝てしまい、気がついたら午後の2時。おっと、1時から町内の夏祭り準備だった！慌てて公民館前の広場に行ったら、もう櫓も完成。すみませ〜ん。提灯を付け、盆踊りの音楽も流れ、もう祭り気分。3時から子ども会の夏祭り開始。

スーパーボールすくいと綿菓子。またビールを頂きながら、お手伝い。夕方、一旦帰宅して夕食をすまして、再びお祭り会場に。我々壮年会と、なんて言ったか？〇〇会という踊りの会が協力して夏祭り。私、踊りが苦手で踊らなかったが、ビール浸りのお祭りでした。中休みに壮年会主催の花火大会もあり、毎年恒例の”ナイアガラの滝”を披露。9時過ぎお祭りは終了し、片づけをして10時過ぎ帰宅。1週間の疲れも加わり、この日誌も忘れて、ぐっすり寝ちゃいました。でも、久しぶりにのんびりした休日でした。・・・あっ！？午前中のがんまめファミリー倶楽部の「里の学校」のお手伝い、忘れちゃった！

2000年8月5日（土） ”なんとあのアビスパがまた勝った！”

ここ藤枝を去りJリーグに上がったものの、毎年J2陥落の危機に晒されるチームであっても、デキの悪い我が子と同じ、やっぱり好きなんですねえ。そのアビスパが今日も（?!）勝った！あの名古屋グランパスにVゴール勝ちした。例によって夏期講習真っ最中で今日の試合をすっかり忘れていた私に、先ほど川崎市に住むアビスパを応援してくれているパソコン通信仲間からその旨のお電話を頂いた。5勝3敗の6位。すごいじゃないか。さあ、お祝いだ。夜中、一人でこの日誌を書きながら祝杯をあげていたら、キクさん（アビスパ総監督）より電話。もうびっくりで、ついコップをすべらせてしまった。「まだ早いよ！祝杯は。」と、キクさん。そうですね、優勝して堂々として藤枝の駅前で祝杯をあげてみたいもんだね。東海リーグからだけど、ずっと各リーグの優勝を見てきたんだもん、やっぱりJ優勝を見届けたいもんだね。ね、昇チャン（某社長の次男様）。

2000年8月4日（金） ”若者の規範感覚を考える。その2”

芹沢氏の論説をもう少し詳しく紹介します。ベネッセ教育研究所が行った高校生の規範感覚調査で、A<とてもイヤな感じ・かなりイヤな感じ>が50%を越えた項目は高い順に、
1. 他人の自転車に無断で乗る。2. スーパーやコンビニで安い小物を万引きする。3. 定期テストでカンニングをする。4. 他人の傘を無断で借りる。5. 他人の教科書を適当に使う。6. 自宅で煙草を吸う。一方、B<気にならない>が50%を越えた項目は高い順に、
1. 夜、高校生同士でカラオケに行く。2. 禁止されているアルバイトをする。3. バイク乗車が禁止されているのに免許を取得する。4. 友達と自宅で酒を飲む。5. 授業中、ガムをかんだり、清涼飲料水を飲む。6. パチンコに行く。7. はちまきなどを返さない。氏はこのような調査結果に、今の若者達の、他人の振るまいが自己領域に対して侵入的であれば反発するが、非侵入的であれば気にならない、そうした一貫した態度が浮き彫りになってきていると述べ、今の若者達は「自分の外に誰か作った規範には縛られない」が、「自己領域に対して侵入的であると感じられる度合いが規範である。」と断言している。それ故に、「ピアスをする男性」「歩きながら物を食べる」「顔にパックする男性」「車内で服装を着替える」「駅や路上に座っている若者」「車内や街中でキスをする」「車内や街中で化粧とする」などは、50%以上が「特にかまわない」のである。

2000年8月4日(金) ”今日は朝になっちゃいました。一若者の規範感覚を考える。その1”

いつもはどんなに遅くとも(いや、「朝早くとも」の方が正確かな)寝る前にこの日誌を書き、翌朝当スクールグループのホームページに送信する前に読み直してから掲載しておりますが、昨夜は深夜2時に遂にボタンキューと寝てしまい、日誌を書くのが朝になっちゃいました。

先月7月24日付けの静岡新聞に、「変わる若者の規範感覚」なる文が掲載されておりました。評論家・芹沢俊介氏(あれ!?最後の1字を取ると、いや待て、更に1字を変えると当藤枝駅前校の生徒と同名だ!)が書かれたものです。ベネッセ教育研究所が高校生の規範感覚を調査した資料、「モノグラフ 高校生 vol.55 規範感覚の崩れ」を氏が分析したものです。要約すると、今の高校生が<イヤな感じ>と<気にならない>を分けている基準は、直感的に言えば、「自己領域」に侵入的であるか否かである、と氏は述べている。「自己領域」という言葉は、氏が作り出したものとのことで、かぎ括弧を付けました。氏は、同調査者達が今の高校生の規範感覚を「崩れ」と否定的に捉えたのに対して、「規範感覚の成立する位置、ないし発生する位置が移ったのだ」と氏は述べています。今日はもう時間がないので、少しの間このことを考えてみたいと思います。

2000年8月2日(水) ”ちょっとお子さんの相談が相次ぎ、日誌をお休みします”

親という者は、やはり我が子のことになりますと、すこし冷静さを欠いちゃうんですね。ここは本人が自分の状態に気付くまでじっと我慢しなくてはと思っても、ついガミガミ言ってしまうんですね。これは、中3と高3の子を持つ私とて(あっ!小6の子もいたんだ)同じです。夏期講習に入りまして、そんな相談や不登校気味のお子さんの相談が相次いでおりまして、私も楽しみなこの日誌も休みがちになると思います。ごめんなさい。

2000年8月1日(火) ”いよいよ本格的な夏期講習開始。”

さあ今日から8月。いよいよ明日からは中学部の夏期講習が始まる。高校部の夏期講習は既に7月14日から始まっているが、衛星授業による完全個別受講のため、中には6,7月から入校したためまだ1学期の授業を受けている者もあり、一斉に夏期講習突入とはなっていない。しかし、この8月からはその高校部の生徒の殆どが夏期講習に入り、本格的な受験の夏到来となる。

7月20日から高校が夏休みに入り、東進衛星予備校藤枝駅前校では、毎日朝8時半頃から生徒が来校し黙々と勉強を始める。中には昼食持参で来ており、SVL(衛星授業)受講後は自習室で勉強を続ける者もいる。午前中高校の補習授業がある者は、補習終了後そのまま当校に来校し、勉強を続ける。夕食も近くに買いに行つては(日によっては当校に生徒のご父兄手作りの100円パンを置いてあるが)、また勉強を続ける。その勉強ぶりには補習に来た中学生もびっくり。そんな風にして朝から夜10時半まで勉強している者もあり、

我が家にも高3の息子と中3の娘がおりますが、ただただ感心するばかりである。(我が息子は毎日衛星授業を受けに来るだけである。) ふと彼らの心の内を覗きたくなる。

2000年7月31日(月) ”初対面のT君のこと”

県中学総体開幕のため、7月29日～8月1日の間、当スクール中学部の授業はお休み。しかしながら、本日は臨時に午後3時間半、夜は2時間半、それぞれ中3と中1,2年生の勉強会を行った。私一人の指導で、さすがに忙しかった。

そんなことから本日は東進衛星予備校藤枝駅前校も午前中はお休みの筈だった。一応シャッターを開け、事務コーナーの照明だけ付けてワープロに向かい、夏期講習のSVL(サテライブビデオライブラリー)用ビデオの世ラベルのタイトル書きしておきましたら、背後から、「すみませ〜ん。ここに入りたいんで、お話をお伺いに来たのですが、いいでしょうか?」と、か細い男の子の声。振り向いてSVLラックの隙間から入り口を覗き見るに、角刈りの日に焼けた背の高い高校生が立っていた。「どうぞ、いいですよ。」と、ワープロを打つ手をやめ、彼を面談テーブルに案内し、話を伺った。

聞くに、この高校3年生の7月まで私立高校の名門運動部に所属、厳しい練習に耐え、運動に、勉強に(こっちはちと声が小さかったが)頑張ってきた。ところが、系列のいくつかの大学をもつ同校学園内試験の成績が奮わず、系列大学の推薦に漏れ、それでも大学に行ってもバイオか、経済(うん?理系、文系とちょっと極端な志望だが)の勉強がしたく、いよいよ運動部もやめ、予備校を探し始めたと言う。「毎日部活を終え、夜10時頃帰ってちょうどこの前を通ると、いつも電気がついていて自転車が数台止まっている。家からも近いし、こじんまりとしていて(うん?)、こんな自分でも見てくれそうだったので。」と、当校来訪の理由。ちょっとおどおどした話し方であるが、最近の高校生にしては珍しくおとなしく、純粹で素直な子と見た。早速、「大丈夫。うちは、それこそこの世界では名の通った一流のプロの講師達の、短大受験、いや大検受験から東大受験まで、様々な講座があるから、しかもいつでも1学期の始めからの授業が受けられるから。」と、当校の説明をした。聞く彼の目も真剣で、本音で自分の状態を話してくる。あの学園内試験で推薦漏れでは確かに厳しい学力だが、この素直さとまじめさなら何とかなる、いや、ホント何とかしてやりたくなっちゃいました。

1時間ほど、彼の希望と、ほんの少しの彼の話と、それ以上にその時の彼の眼から得た彼の情報を元に、これからの彼の受験勉強スケジュールを立てた。そして、その中の2つの体験授業を受け、ご両親に相談すべく彼は帰宅した。予想したように、夕方彼から電話が来た。中3の個別指導中だったが、10分程彼の母親と話した。やはり彼の学力と大学受験との格差を思い、高校受験の経緯から浪人させてまでとは考えてないご両親の、これからの勉強による学力向上の不安だった。こうした例は過去20年近くに渡る指導の中では毎日のこと。「あの彼の素直さと真剣さがある限り、挑戦させてみようと思ってます。」だったかな?そんなことを彼の母親に向かって言っちゃいました。でも、本音です。また彼に賭

ける今年数人目の高校生となりそうだ。

2000年7月30日（日） ” 2年ぶりのJ1・キクさん生観戦（？）”

昨日はホント、2年ぶりにJ1サッカー生観戦に行った。J1・アビスパ福岡主将・三浦泰年選手の妹さんが応援バスツアーを計画して下さり、柏でのアビスパ福岡対柏レイソル戦を観戦した。アビスパ福岡運営スタッフとの所用のため、(株)中央防犯の方で手配して下さり、ベンチ裏で、これまた久しぶりに総監督・キクさんと並んでの観戦でした。相変わらず熱くなるキクさん。「な、あれ、オフサイドだろ?」、「あれ?オイ、線審!それ、またオフ、ったくー。」、「な!山ちゃん。あれって、オフサイドだよなあー!」、うんうんといっしょに頷いてしまう。「アッ!ノ、ノブ。ナイス!ア〜、助かったー。」、「オイ、オーイ!!ハライ!!13番、マーク!そ、13番!」、「よしよし、そうだ!!気を抜くなー。」何度か訪れたアビスパの決定的なチャンスも、ボールがゴールマウスに嫌われ、なかなか得点できず。「ったくー!」、「アッ!入った?ウン、そ、外かー、あ〜〜あ。」何度か立ち上がっては、椅子に崩れ落ちるパフォーマンスも忙しい。アビスパが押し気味に試合を進めるも、前半25分だったか、レイソルにDFを崩され痛恨の失点、「あ〜〜〜あ」。「な!ここは踏ん張れ!」、「いいか、マークを外すなー!」、「ハ、ハライ!戻れ!早く!!」、「わかる!えらくても、あと5分!」次第にアビスパの運動量が落ち、レイソルに攻め込まれる。「アッ!ヒェ〜、助かったー。」ハーフタイム、選手の士気を高めるためか、控え室の外にも漏れる大声でアドバイス。選手達も大声でそれに答える。後半戦、レイソルもすっかりリズムを取り戻し、がっちり四つ組んだ試合展開。アビスパはいよいよ点を取るため、運動量の落ちたFW・MF陣の選手達を次々と交代させる。相変わらずキクさんの激しく、かつパフォーマンス入りの檄が飛ぶ。終盤、アビスパは怒濤の攻めを見せるも、洪選手を中心とした堅いDFの柏を崩せず、敗戦。結果、J12ndステージ前節第5位から第7位に後退。終了間近、ゴール裏のアビスパサポーター席に移った。肩を落とし戻ってくる選手達の肩を軽く叩きながら迎えるキクさんの姿が見えた。

2000年7月25日（金） ” 佐藤学教授の「少子化時代の子ども危機」(静新夕刊) その2”

県内のある地域でこんな事があった。中学1年の長女と小学5年の長男、小学3年の次女を連れ離婚した母親は、当然に生活を支えるため働きに出た。時はまだ今日のような構造不況を迎える前で、新しい土地でも何とか仕事も見つかり、一家4人の生活が始まった。しかし、そんな生活も束の間、日本はバブル経済が見事に弾け、戦後最悪の構造不況に入ってしまった。当然のようにその母親の勤め先である製造会社も、売り上げが伸び悩み始め、数年後遂には経営困難に陥り、規模縮小を余儀なくされ、その母親も解雇された。この間、長男は小5にして”番を張る”ことを豪語しては同級生に威圧的な態度を取り始め、中学校に上がったからは服装も乱れ、ピアスに茶髪に自己主張をし、そうした仲間のトップに

君臨した。長女もいわゆる暴走族と付き合い始め、仲間から”姉御”と呼ばれるようになっていった。しかし、そんな彼らも、ひとりになれば共に家庭での寂しさを漏らした。母親はすぐにパートの勤めを見つけ、夜も別のところで働き始めた。そんな家庭を見かねた町内会長が公設の学童クラブに次女を通わせ、可能な限り夕方には町内の役員交代でその家庭を訪問しては子ども達の様子を伺った。しかしながら、母親は父親と母親の両方の役割どころか、片方も満足に果たしきれず現在に至っている。

佐藤教授が言う、「子ども達は社会の子の視点で」。平気で煙草を吸いながら通学する高校生を咎めるのもなかなかできない。ましてや、夜中駅前やコンビニでたむろする若者にはつい目を背けてしまう。勿論知っていれば声を掛けられるが、全く知らない子ども達では声を掛ける勇気が出ない。そんな今日にあって、その一部の人達によってかもしれないが、積極的に地域の子どもの子育てに取り組むその町内会は頼もしい。やはり我々の一人一人がそんな意識と”勇気”を持って地域の子どもの達に接していくことが、この「少子化時代の子ども達の危機」を乗り越える第一歩になるのだろう。・・・そう言えば、昨年我々本部役員で決めたPTA努力目標の一つに、「大人にも子どもにも、気軽に声を掛け合おう。」というのがあったんだっけ。

2000年7月27日(木) ”佐藤学教授の「少子化時代の子ども達の危機」(静新夕刊) その1”

夕方食事を取りながら静岡新聞夕刊を読んでおりましたら、佐藤学・東大教授(教育学)の「少子化時代の子ども達の危機」と題する記事に目が留まった。高学歴者の晩婚化と少子化が進む中、不況とリストラによる経済的困窮や、夫の妻に対する暴力に関する女性の意識の高まりを背景に、特に中高年における離婚率(人口千人あたりの離婚組数)は2.0と、米国の4.3には達しないものの、ドイツ、フランスと同じ水準に達しており、離婚やローンによって精神的不安と経済的困窮に苦しむ子どもの数が激増しているという。今年の4月、中央教育審議会がその報告で、家庭の教育力と地域社会の教育力の復活を提唱したが、佐藤教授は「子どもは社会の子」という視点で、家庭に過度に依存しない子育てと教育の新しい社会システムが求められていると締め括っている。少しこのことについて考えてみたいと思う。

2000年7月26日(水) ”アビスパのこと。”

当ホームページ・「ヒゲグマ先生のもうひとつの世界」をお読み頂くと分かりますが、私が中央防犯SC以来10数年応援しているアビスパ福岡が、今夜のJ12ndステージ第6節でガンバ大阪に2対1で逆転勝ちした。J2陥落を乗り越えたこのチームは、このところはJリーグ昇格以来初めての記録づくめで、勝敗数ではなんとあのジュビロ磐田と並び4勝2敗、16チーム中第5位につけている。先ほど総監督のキクさんにお祝いのお電話をさせて頂いたが、キクさんの声も初めて(?)弾んでいた。「これも日頃のピッコリ(監督)

の指導力のおかげ」と、いつもながらの謙虚な返事が返ってきた。富澤・中央防犯社長の苦渋の選択以来、年を追う毎にその数も減りがちなここ藤枝でのサポーターの人達も、今年ばかりは胸を張って応援できる。前述の通り、J昇格以来下位に低迷し、連続してJ2陥落の危機を乗り越えたチームも、監督を始め指導スタッフ陣と選手達のコミュニケーションが充分取れ、一丸となって同じ目標に突き進めば、グンとその力も増す。これは、我々の日頃の学習活動も同じ。明日の新聞記事を楽しみに、久しぶりのお湿りで心地よい夜風を受けながら、数年前の博多の森の夏を思い出し、ちょっと書き留めました。

2000年7月25日(火) ”業務多忙につき小休止。”

前にも書きましたが、このところ毎日最後の経理チェックを終え、大好きな焼酎をちょっとばかり(?)飲みながら、この日誌とニフティに(こちらは最近ちと書き込みが減っちゃいました)、つらつらと思いのまま書き留めることが楽しみになっております。しかしながら、今日は朝からO中学に出向き、先月からお受けしておりますお子さんのご相談の件で1時間ほどお話をお聞きし、そのまとめに少し時間がかかっており、また、本日の東進衛星予備校生の受講ノートへのコメント書きが溜まっておりますので、残念ですが、本日の日誌は再び小休止させていただきます。

2000年7月24日(月) ”焼津・大崩海岸の海は眩しかった。”

(塾仲間で焼津グランドホテルに泊まった)朝5時、寝汗をびしょりかき、寝苦しさに目を覚まし、夕べ(いや、朝3時頃まで)みんなで酒を交わし、語り合っていた部屋に行ったら、大樹館・河合先生、しっぷすつつじヶ丘の長田先生、そして、東京からお越しの小池先生の3人がまだ話をしていました。そのタフさもすごい。窓からこぼれる朝日にカーテンを開けたら、絶景かな、焼津・大崩海岸の絶壁に燦々と朝日が射し込み、静かに波打つ眼前に海では数隻の漁船が既に漁をしていた。港町の朝は早い。夕べは久しぶりに組合や塾の仲間の方々と語り合い、時にはお互いをぶつけ合いながらも親交を深めた。それにしても寝不足の目にはあの朝日は眩しかった。

(2000年7月2日(月)、6日(木)、21日(金)の ”昔のある少年の話”は、「小さな人間たちの詩」に移しました。ご了承ください。)

その少年も14歳で初恋をした。彼の姉と同じクラブの同級生だった。数年後ミス** (高校名) に選ばれた、彼には誠に申し訳ないが、彼にはとても不釣り合いなかわいい子だったと、彼の友達と言う。勿論、当時の片田舎の14歳の少年、少女達の恋愛なんて、今の中学生には想像がつかないくらい(?) ”うぶ”なのかもしれないね、と彼は言っていた。「塾なんてなかったけど、クラブ活動は毎日行われ、週に1回は生徒会の委員会がある。そんな学校生活で、時折手紙と言うか、交換ノートみたいなものを渡す位。あまりみんなに知られないように、休み時間はちょこっと話す程度。電話? そんなの照れくさくてしないよ。

お互いの誕生日に、手作りの物や本を送り合ったり。それでも 5 年位続いたのかなあ。自分の友達と親しげに話す彼女と出くわしてしまって、それで終わりさ。」「でも、そんなときはいろんな事を知ったし、考えた。なんて言うかなあ、ホント初めて自分ととことん見つめ合った気がする。」と、彼は語り続けた。

p s. 明日と明後日は、夏期講習準備に、地区壮年会のソフトバレー大会&組合の会合のため、日誌はお休み致します。

2000 年 7 月 20 日 (木) ”ダニエル・グリーンバーグ氏の日本訪問記に思う その2”

氏は、日本の熱烈な歓迎ぶりに、日本の知的層が過去 1 世紀に渡って日本の学校を支配してきた前提のすべてを問い直そうとしていると感じ取った。確かに、古くは共通一次の実施から近年の学習指導要領の改訂まで、更にはこのところの小渕内閣と続く森内閣の本格的な教育改革断行の姿勢からその動きは伺えるが、果たして日本はその「すべてを問い直そうとしている」だろうか？学歴社会の中にあってその流れに乗り、”学力”優秀でもって東大＝文部省に進んだ官僚人達や、戦前からの規律教育の中で育った政治家達が、ややもするとこれまで自分達の歩んできた道を否定するかもしれない抜本的な改革を打ち出すことができるだろうか？答えは難と言わざるを得ない。かく言う私も、日頃の我が子達の教育には頭と行動のちぐはぐさにジレンマを感じる毎日である。今年の 2 月末、県教育委員会生涯学課主催の学習塾関係者懇談会に招かれ、不登校、高校中退、いじめ等の様々な現象への対応を語り合う席上、大手学習塾教務担当者の「ご父兄に要望に答える私達には関係のないこと」との一言に、学校教育見直しの困難さと学歴社会見直しの更なる難しさ感じた次第である。しかし、私はその改革を諦めているのではない。行き詰まってきた現在の日本の教育の本格的な見直しのために、もっともっと広く、且つ、もっともっと深く、根気強く議論し、世論を盛り上げて行くべきだと思う。夫婦で我が子の教育を考え、地域や P T A で学校教育を語り合い、様々な業界でそれぞれの分野の教育を議論し、こうしたネットの世界やマスコミをも巻き込んで大いに議論し、打開策を探っていこうではありませんか。(と、小さな一筋の流れもいずれは大海に注ぐことを信じて。)

2000 年 7 月 19 日 (水) ”子どもの相談が入り、本日は日誌を休みます。”

1 学期終業式の日。なんと 3 件の子どもの相談が入り (1 件は前日に予約が入っていましたが)、う〜ん、その打開策を考えておまして、本日は日誌をお休みします。ごめんなさい。

2000 年 7 月 18 日 (火) ”ダニエル・グリーンバーグ氏の日本訪問記に思う その1”

1000 年に渡る封建社会の遺産か、あるいは、鎖国 210 数年間の劣等感か。厳しい規律のもと、子ども達に同じ情報ベースを吸収させようとする厳しいカリキュラムと、集権化された官僚機構から発せられる、複雑に階層化した権威に根ざしている日本の学校。一方、イギリスからの自由・独立を果たし、デモクラシーの根付いたアメリカ・ニューイングラ

ンドの地にあって、子どもは自分自身の教育に個人としての責任を持つべきであるとの認識のもと、完全なる教育の自由を与えるサドベリー・バレー校。その違いを想像することは難しいと言う氏は、この 2 週間に渡る日本滞在で受けた熱烈な歓迎と徹底した取材、その関心の深さに、日本の教育の大転換のかすかな地響きを聞き取っている。確かに近年日本では、校内暴力、いじめ、自殺、非行に、学級崩壊、不登校という様々な現象に、ようやく教育改革が叫ばれ始め、その中で”ゆとりのある教育”が打ち出され、平成 15 年には新学習指導要領が実施されようとしている。ところが、暴力や規律の欠如、成績不振などの諸問題に悩むアメリカでは、なんと明治時代の富国強兵策以来日本が取り続けてきた厳しい規律教育でもって、その問題の解決を図ろうとしていると、氏は言う。その素晴らしさを聞かされ続けてきた日本型の学校モデルに、しかし、日本が何年もの間試行し続け、今の状況に合わなくなったと結論づけた、その教育モデルに向かっているアメリカの目を覚ますのは、一体何だろうかと締め括っている。(明日に続きます。おやすみなさい。)

2000 年 7 月 17 日 (月) ”東進衛星予備校藤枝駅前校・大改造”

今日は朝からひとりで東進衛星予備校藤枝駅前校の大改造を行い、ちょっと疲れましたので、日誌も一休み致します。大型エアコンが 2 台もあるにも拘わらず、後に前の借り主が一部に間仕切り壁を設置したため、ちょうどSVLルーム(個別衛星授業ルーム)にエアコンの涼しい空気が充分回らず、SVLルームと自習室を入れ換えたのです。自家製大型SVL机3台を、下に段ボールを敷き、ひとりで移動。3時限目(午後2時から)に来る生徒に間に合わせるため、昼食抜きでやってみましたら、天の助けか、昼1時頃テスト勉強のため大家さんの息子が立ち寄り、手伝ってくれた。ありがとう、S君。タオル2枚が汗ビショリ。ちょっと痩せたかなあ・・・?

2000 年 7 月 16 日 (日) ”どうして学校に行くのか? 訂正版”

今日、長女(中3)のお付き合いで、女房と一緒に久しぶりに静岡市の本屋さんに行った。行き、女房の運転する車の中で、パソコンに落としたサドベリー・バレー・スクール創始者のダニエル・グリーンバーグ氏の日本滞在記(今年の4月来日)を読んでいた。これもまた大変興味深い話だったので、またそれについて書き留めてみたいが、今日の話はそれではない。

私、大変な失態をしてしまった。娘が本を探している間、ぶらりと心理学関係の書籍コーナーに行って本のタイトルを眺めていたら、「マズローの心理学」なる本に目が止まった。うん?マ「ズ」ロー??あれ?マ「ス」ローじゃあなかったの?(以前のこの日誌訂正済み2020.8)それに、経済学者じゃあなかったの?急いでその本を手にして読んでみたら、杉田先生が講演ビデオでおっしゃっていたのは、まさしく「心理学者・マズロー博士」でした。どうも私が、「マズロー博士」を「マスロー博士」と聞き間違え(この日誌は訂正しました)、その上その内容から、私が勝手に「経済学者」としてしまったようだ。い

やはや、自分の勉強不足をさらけ出してしまった。ごめんなさい、皆様。お詫び申し上げますと共に、訂正させて頂きたい。

今、家に戻り、その本を読んでいる。

2000年7月15日（土） ” どうして学校に行くのか？ その5”

勿論、ここではテーマから、主体者（設置者ではなく、子ども達）の立場からの学校を考えている。こんな風に5日間に渡ってつらつらと考えていくと、Yちゃん、いくつか見えてきたんじゃない？

その一つに、マズロー博士の言葉を借りれば、同世代の仲間が群れ集う学校に子ども達は「自己実現」の場、即ち、自己の存在感が持てる場所＝心の居場所を求めて通っているんじゃないかな。中には図工・美術の時間にその存在感を感じる子もいるし、Yちゃんみたいに音楽、ピアノにそれを見出している子もいる。あるいは、放課後のサッカーやテニスの部活動に、勿論、数学や理科に、歴史の授業に率先して自己の存在をアピールしている子もいるんじゃないかな。本日誌7月6日以前に出てきた”昔のある少年”も語っていた。「”本の虫”に、”昆虫小僧”、”野球少年”に、はたまた”山芋堀の名人”と、いろんな仲間がいて、みんなそれなりに一目置いていた。言ってみれば、自分は”質問小僧”かな。」

中には、学校を進学・資格のための勉強の場、あるいは、社会に出て働くための科学技術習得の場、自分の特技を磨く場と捉えて通う子もいるね。1997年7月1日、NHKで紹介されたアメリカにある私立学校・サドベリー・バレー・スクールには、個室で教科書とその教師用指導書を片手にひとりで1日一生懸命勉強している子や、近くの大工さんに依頼し、校庭で実際に建物を建てながら、建築を勉強している子ども達、毎日4時間トランペットを吹き続け、音楽院に進み、交響楽団の第1ホルン奏者になった子もいる。その創設者・ダニエル・グリーンバーグ氏（元物理学大学教授）が書かれた「超・学校」が一光社という出版社から出ているから、一度読むといいよ。（余談だけど、理想として取り上げられることの多いこの学校ですが、民主主義の土壤がない日本でこうした学校が育つのはなかなか困難では思っている。諦めてはいないけど。）

そんな意味で私は、学校はコミュニティだと思う。うまく表現できないけれど、同世代の人間が群れ集い、語り合い、感じ合いながら、お互いの人間性をぶつけ合い、お互いの存在を認め合って、それぞれの自己実現を目指して生活する、そんな場のように思う。う〜〜ん、難しいね、このテーマは。今の私の頭では、ここまでかな。こんなんでどうかな？ Yちゃん。またいろんな人と語り合い、本も読んで考えてみたい。

2000年7月14日（金） ” どうして学校に行くのか？ その4”

いよいよ本テーマの一応のまとめに入りたい。

日本の心療内科創設に寄与し、教育関連事業協同組合主催でここ3年間ばかり勉強会を

開催して参りました「交流分析」を日本に紹介して下さいました、杉田峰康・福岡県立大学院教授（当時）の「登校拒否への援助と直し方」なる講演ビデオで、先生は次のように述べている。

経済学者・マズロー博士曰く、人類はまずは食べていくために狩猟生活を始め、食料の栽培技術と飼育技術を修得してからは、安全な社会の実現（いわゆる警察国家か？）と集団生活ができる国家の実現を目指し、国のため、社会のためと歩み、東西の冷戦構造が解消した今、人類はひとりひとりの欲求の実現を目指している。人類の欲求の最後のゴールは、自己主張・自己実現であると言う。そうしたことを背景に日本の教育は、明治時代の富国強兵の理念からくる教育と、子どもの権利条約に見られる、子どもひとりひとりの人格を認め、子どもをひとりの人間として扱う人間中心主義の教育理念とのジレンマに陥っていると、先生は指摘している。しかし、歴史の流れは人間中心主義のカウンセリング教育が伝統的な教育の在り方を必ず凌駕する、と先生は明言されている。

本話その3でも書いたが、ここでは今の私達にとって、学校って一体何だろうかを考えたい。「学校が好きだもん」と言った勇樹君に尋ねてみたい。仲間のめぐりあう場だから？自己主張・自己実現は、たったひとりの世界では成り立たない。他人に自分を主張して、また周りが自分の存在を認めて、いや、お互いにその存在を認め合って初めて成り立つものである。私達は、あるいは今の子ども達は、地域の殆どの同世代の仲間が群れ集う学校にそれを求めてはいないだろうか。勿論、それは学校だけではない。家庭でも、地域社会でも、会社でも・・・こうしたネットの世界であってもいい。しかし、少子化で小さい時から人間関係に揉まれることの少なさに、あるいは、地域社会の人間関係の希薄さに起因しているのか、現実の学校には悲しいかな、一部に自分の存在だけを維持し、”お互いの”存在を認め合わない「いじめ」がある。15才で命を絶った少女は、「学校なんて 大きらい みんなで命を削るから」と、悲しく書き残した。また、そうした場を求める学校には一方で、高度に発達した経済社会中でこれから生きていく子ども達への科学技術の伝達と創造の場としての役割が、現実にある。そこで勇樹君は、「一番大切なのは勉強ですか。」と問うている。

p s. なんかつと論文調に書きつづっちゃったかな？もう少し続きます。

2000年7月13日（木） ”17歳の少年が見る「17歳の少年事件報道」”

今日も「どうして学校に行くのか。」をテーマに、思いつくままにつらつらと書き留めようと思っておりましたが、いつもの双葉学習院のホームページ掲示板に、17歳の森川君の鋭い意見の書き込みがありましたので、予定を変更してそのことにちょっと触れてみたいと思います。

皆さんも是非彼の書き込みを読んで頂きたい。17歳の森川君が見る、「17歳の少年事件報道」。彼は、報道が少年を取り巻く環境にのみに固執していることを批判し、少年本人の責任の追求の甘さ、「過保護さ」を鋭く指摘しています。同感です。偶然にも私は今朝、「少

年犯罪事件記事」なる自分のファイルを持ち出して読んでいました。「親の責任」の話でも述べようとしたのですが、親の立場から言えば、もっと我が子と真正面から向かい合うべきだと思います。時には体を張り、立ち向かうことだってあるんです。それが父親、父性なんです。そして、同じ涙を流すことも、抱き合って喜ぶこともあるんです。それが母親、母性かもしれません。我が子を本当に分かり合えるのは、精神分析医でも、心理カウンセラーでもない、親である私達なんです。そして、その親のもとで我が子達は育っていきます。そんな意味では、私達、学習塾も、各学年に”異卵性多数生児”を抱えた大家族の家庭かもしれません。

2000年7月12日（水） ” どうして学校に行くのか？ その3”

今日は大学1年生Yちゃんのレポート資料のため、ちょっと日本での学校の歴史をざっと追ってみたい。今、私が浪人時代に作成した日本史のサブノートを見ている。

皆さんもご存じの通り、奈良・律令時代に官吏養成学校として中央に大学、地方に国学が設けられたが、5位以上の貴族の子弟や郡司の子弟に限られ、庶民には無縁のものであった。平安時代に有力な氏族によって大学寮付属の大学別曹も設けられたが、平安末期には律令国家の衰退と共に衰微してしまう。828年に開いた空海の綜芸種智院は、庶民に門戸を開いた独創的なものであったが、彼の死後廃止されてしまった。鎌倉時代の金沢文庫及びそれと密接に関連する金沢学校と、室町時代に再興された足利学校は、共に僧侶養成に利用され、教育は僧侶に依存する形であったが、このころ江戸中期に普及した寺子屋が発生した。近世・江戸時代には、幕藩保護のもとに身分制的な教育が行われた。幕府は昌平坂学問所、諸藩は藩学・郷学で儒学中心の教育を行い、儒学・国学・洋学の私塾の発達、寺子屋・心学舎という初等教育機関の発達はみられたが、一般に画一的、固定的であったことは見逃せない。

明治以降は、例によって当スクール講師・松永先生の作成した資料から話します。明治4年文部省が設けられ、以後数次にわたる教育法令を発して、日本は近代的教育制度を確立していったが、学校は立身出世、職業・事業成功の道であったことは拭いきれない。明治政府は学校を、エリート教育＝学問、即ち国家のための指導者養成と、一般教育＝教育、即ち実用、実学を身につけるためのものに分けた。共に共通することは、生徒自身のために学校があるのではなく、国家のためにあった。時代と共に姿は変わるが、基本は変わらない。特に昭和初期は、臣民として国家に忠義を尽くす軍国主義教育が推進された。敗戦後、教育の民主化の名のもと、学校は6・3・3・4制に改められ、あらゆるすべての子ども達に最善の教育を平等に配分することを目的に、機会均等、普通教育の徹底、男女差別の撤廃、心身の発達段階に応じた教育と改革され、現在に至っている。

勿論、これはあくまで過去の学校の話。さて、今の私達にとって、学校って一体何だろうか？明日（日付はもう今日になっているが）からそれを考えてみましょう。おやすみなさい。（もう朝だ・・・）

2000年7月11日（火） ” どうして学校に行くのか？ その2”

今日もまた忙しい1日だった。早朝から決算のために経理点検。そして、午前中1時間ばかりの不登校生の学習指導。その後、コンビニで昼食を買い、車の中で食べながら、やはり不登校の児童の件で、なんとまあ車で1時間半の〇小へ。行く道々、色々と考えた。「学校ってほんと何だろう？」仲間のめぐりあう場？だから、昨日の勇樹君は「一番大切なのは勉強ですか。」と訴える。このところ月に何日か中学校に行き始めたS君にとって、現行制度上中学校は高校に行くための手段として捉えているようだ。今向かっている、まだ一度も会っていないM君にとっては何だろう。それが掴めないから、行ってないんだね、きっと。

当スクール講師・松永先生に聞けば、ドイツで生まれた学校は、本来職能教育と貴族教育の場であったようだ。それが近代化の中でイギリス・ランカスタースクールのように、国造りのため子ども達を囲い込み、共通言語、共通習慣、共通規律を教える場となり、近代国家経済に必要な知識・技術の担い手、共通教養の育成のために公立学校ができ、義務化されたという。日本ではどうだったんだろう。続きは、また明日（いや、もう今日だけ）に。

（そうだ、今日の午後、先日の大学1年生のYちゃんからメールが入っていた。今日提出のレポートが1週間伸びたんで、この日誌を参考に書かって言ってた。いいのかなあ、こんな気ままな日誌を参考に。少し学問的に書かなくては、なんて思っても書けないよね。まっ、いいか。ー皆さん、よろしかったご意見をお聞かせ下さい。）

2000年7月10日（月） ” どうして学校に行くのか？ その1”

今日から何日かに渡って、8日に来校してくれた大学1年生のYちゃんの火曜日（エッ！今日だー日付けが変わって11日になっていた）提出のレポートのテーマについて考えてみたい。（「昔のある少年の話」も継続中ですが、それこそ”つれづれなるままに”（当時のこの日誌のタイトル）話したくなったら、の姿勢でいこうと思います。）

ー昨年、約半年に渡って当スクール講師（元青島北中教諭）・松永先生に聞いて頂いた、オープンスクールゼミ・「歴史と人間ゼミ」の第1回テーマ「学校ってどうしてできた？」（1998年4月25日実施）の資料を紐解いて見ている。

1. 学校って何にー大人になる、社会人になる、学歴がないと、資格がないと、卒業しないと何もできない。学校が人生のすべてだ（??）

ところが、こんな声もある。少年院 駿府学園 文集「安倍川」よ」

「学校は生徒に同じことを強いている。少しでも本当の自分を出すと、『変だ』と言われる。学校は疲れる所」（恵一）

「僕は勉強は嫌だし、バカだよ。だけど、除け者にせず、仲間に入れてほしかった。先

生、僕の気持ちを理解してほしい。学校は好きだもん。一番大切なのは勉強ですか？」（勇樹）

1984年12月3日 信州・安曇野 15才の少女自殺 そのノート

「学校なんて 大きらい みんなで命を削るから
先生はもっときらい 弱った心を踏みつけるから」

学校って何？勿論、学校に行かなくたって大人になるし、学校は人生のすべてではない。画一化教育にも陥る。「みんなで命を削るから」、この言葉は強烈に響く。

「学校は好きだもん」、どうして？そこに”一つの答え”がないだろうか？勿論、今日は歴史上の、既成概念の学校を考えてはいない。人間は集団動物だよ。ね。「間」という言葉を広辞苑で調べていくと、「めぐりあわせ」という意味が出てくる。人がめぐりあい人間となっていく。「学校が好きだもん」と言った勇樹君にとって学校は、そんな仲間がめぐりあう場所だったのではないのだろうか。

2000年7月9日（日） ”青島北中サッカー部の熱き夏、無念にも終わる。”

今日は、朝8時から地元・青島北小のPTA環境整備活動があつて、炎天下2時間ほど草刈り機持参で学校の周りの草刈りに、びしょりと汗を流した。その後自宅でシャワーを浴び、昨日教え子達から聞いた中体連サッカー大会第一次リーグ戦最終日、地元・青島北中対瀬戸谷中戦の観戦に、愛犬・ラッシー君を連れ青島北中に出かけた。30分時間を間違えたことと前試合の遅れで1時間ほど待たされたが、ほんと久しぶりのサッカー生観戦だった。今日の最終戦に勝たなければ、次のトーナメント戦には出場できないという瀬戸際に立たされた青島北中は、前半から積極的に攻撃を仕掛けるも、高い瀬戸谷中のDFにことごとくクリアされ、苦しんだ。当スクール生・9番Y君はFWの底、DF最終ラインを守る13番S君。二人ともよく頑張ったが、S君は相手FWのワンマークで交錯した際、イエローをもらってしまい、PKで瀬戸谷中に先制されてからは、後のない青島北中は攻撃に転ずるため、MF・E君と交代されてしまった。う〜ん、残念。その相手・瀬戸谷中のPKも、ちょっと悔しかった。右ペナルティエリア外の瀬戸谷中のFKからのゴール前の混戦で、相手選手を倒したとの判定でPK。9番Y君、結構うまかった。ちょっと私の日頃の評価が変わった。前線に果敢にボールを出し、攻撃の形を作った。前半1回、後半2回程の自身の決定的なチャンスも、ゴールマウスに嫌われ、得点できず残念。試合直前に賭けたラーメンも逃がしてしまった。後半途中からは暑さも加わって運動量が落ち、大声で「おれ達のサッカーをやろうよ！」と一人気を吐く11番？君も周り空回り。青島北中サッカー部の熱き夏が、試合終了のホイッスルと共に終わった。

2000年7月8日（土） ”大学1年生のYちゃん来る”

1週間前電話で、「先生、8日の土曜日の午後、駅前校（東進衛星予備校藤枝駅前校）にお邪魔しま〜す！」って言ってた公立大学1年生のYちゃんが、その言葉通り今日の午後4

時過ぎ藤枝駅前校に来てくれた。しかし、あいにく私が個別指導中だったので、夜 9 時半に改めて来てくれ、同級生で当校の受付のアルバイトをやっている M ちゃんと一緒に先ほどまでいろんな話をした。多感な時期、色々と悩みながらも見事公立大学に合格した Y ちゃんも、大学生活 4 ヶ月目。大学の勉強に友達との交遊と、ちょっと大学の勉学には苦しみながらも楽しくやっているようだった。初めて親元を離れて数ヶ月の自炊生活でちょっと成長したね。落ち着きを感じました。

来週の火曜日までのレポートのタイトル、「どうして学校に行くのか?」。う〜〜ん、これは是非皆さんとも話し合ってみる価値のあるテーマですね。私も明日まで考えてみようと思います。

2000 年 7 月 7 日 (金) ” 仏様の指の話ー双葉学習院HP 掲示板より ”

一昨日、いつもお世話になっております沼津市の双葉学習院のホームページ・フタバ掲示板を読ませて頂いておりましたら、「友紀の母」なる方から、朝日新聞に掲載された国語学者・大村はま先生の「仏様の指の話」が引用されておりました。私共教育に携わる者には、その姿勢を示唆されるいいお話でしたので、少しお話しさせていただきます。

ある男が雨の中車を引いていたところ、ぬかるみにはまってしまい、汗水垂らして必死に抜こうとしていたのを見ていた仏様が指でそっと触ると車は抜け、男は大喜びで車を引いていった。勿論、男は仏様が指で後押ししてくれたことを知らず、自分の力で抜いたと思っている。そういうのが本当の教育だというお話でした。

引用された友紀さんのお母さんもおっしゃっておられましたが、仏様の指の後押しより、自分で抜いたという自信が生きていく強い力になる、正にその通りだと思います。母親もこうありたいと締め括っておられた友紀さんのお母さんも、素晴らしいお母さんですね。私達もその意味で少し”謙虚”にならなくてはと考えさせられました。いいお話、ありがとうございました、友紀さんのお母様。

p s. 当ホームページのリンク集にも掲載しておりますが、今回のお話の「フタバ掲示板」が掲載されております (現在はありません 2020.8)。皆様も是非ご覧下さい。

2000 年 7 月 6 日 (木) ” 昔のある少年の話 その 2 ”

江戸末期に建てられた少年の家の納屋には、今では骨董屋が喜ぶような明治時代から使われた数々の小道具と共に、昭和初期のその列車 (勿論、当時は蒸気機関車) の時刻表が残っていた。黄ばんだその紙には、1 日にたった 1 往復の時間表が毛筆でしっかりと書き込まれていたと彼は言う。勿論、彼が通っていた頃は客の少ない昼間は 1 時間 1 本、朝夕の通勤・通学時間帯にはそれでも 1 時間に 3 本はあったと言っていた。山間の川沿いを走る鉄道ゆえ、大雨が降ると崖崩れで線路が埋まり、そこは歩いて向こうで待つ列車に乗るといことも何回かあったと言う。彼の通っていた小学校は、彼が 6 年生になると廃校になり、電車の待ち時間なしで片道 30 分程の電車通学が始まった。小学校は下の学年の子ども達を引き連れての集団電車登校。帰りも集団下校のかな? 中学校では毎日クラブ活動もあ

り、乗り遅れたら次の電車まで待ち、時折、ほんと時々その待ち時間に宿題をやったり、ある時は疲れて寝込んでしまい、見知らぬおばさんに起こされあわてて飛び降りたり・・・そんな生活だったと言う。

今と違って殆どが塾に通っていない（と言うか、塾がないんですね）当時は、クラスでの班の勉強会が盛んだったと彼は話した。数学や英語は、先生の板書き授業のあと、机を班に向かい合わせして班で教え合いながら問題を解いていった。理科は、今と同じように（と思いますが）教室自体が班ごとの実験机になっていた。それで、時々放課後にもクラブ活動の前に、班の仲間で集まって勉強会が自主的に行われていた。だから、みんな仲間意識も強く、今でも4年ごとに同窓会を開いては親交が続いており、今のいじめや不登校が信じられなかったと彼は語ってくれた。

2000年7月5日（水） ”親の責任 続編”

6月29日の話の続きです。

やはり母親には海外単身赴任中の父親の替わりは大変なのだろうか。父親もそうした状態を知りながらも、現実にその少年に対応できない悔しさを感じていることだろう。結局、母親はもう一度昼食を作り直し、彼の部屋まで運んでいった。「そうすれば、暴れることもなく家の中が平穏になるから、つい・・・。」それが本音だろう。しかし、彼はそうした母親の気持ちを利用して、自分の欲求を満たしている節が感じられる。彼はほしいゲームソフトが発売されると、母親にせがみ、暴れまくる。その状態に耐えかねて、母親はつい買い与えてしまう。ゲームソフトだけではないと言う。そうすると、これは”心理ゲーム”なんですね。もはや親の責任云々の話ではありません。ここは冷静になって、毅然とした態度でそうした”心理ゲーム”を断ち切ることだと思いますね。

2000年7月4日（火） ”ちょっと1日お休みしますね

書きたいことがあったんですが、ちょっとばかり忙しくて書きこめませんでした。1日おやすみしますね。

2000年7月3日（月） ”昔のある少年の話 その1”

当時、二本の白線の入った学生帽と**色のユニホーム憧れ、いわゆる進学校を志望。親もさる者、「うちの中学校ではこれまで多くて1人しか合格してないのに、お宅のお子さんが受けたいと言うと、今年は2人となっちゃうんで、どうしましょう？なんとか志望校を変え頂くなり、私立を併願して頂かないと、・・・」との担任の先生の親切なお言葉を無視し、「ただ本人がどうしても行きたいと言いますので。」と単願を申告。本人はただただ「努力は天才に勝る」との言葉だけを信じて、そのわりに日記には「もう10時。寝るべし。」と、当時人気の”ケムンパス”のイラストと共に書き留めて床に入る。そう言えば、あの「となりのトトロ」並の田園風景の、塾はおろか、書道教室もそろばん教室もなにもない

片田舎に住む少年にとって頼れるのは、学校の教科書と先生、そして友達。そう言われたら、恥ずかし気持ちなんかも捨て、級友達に詫びながら、授業中は分かるまでとことん質問をした。ある時、フレミングの右手の法則と左手の法則の違いが分からず、本人は必死に質問して 2 時間の理科の授業を潰してしまい、「ごめん、ごめん。」とみんなにしきりに頭を下げた。はたまた勉強のできる友達をつかまえては、休み時間によく教えて貰っていた。毎日出される宿題は、時々そんな具合に休み時間にちょこちょこやっていた。すぐに復習できると言って、1年生からのノートをホッチキスと糊で閉じ続けていって、3年生の2学期には厚さ7,8cmになったノートを毎日鞆に入れて通っていた。クラブ（今で言う部活）をやって家に帰れば、一番下の者の勤めの風呂炊き。そして、共働きの両親の帰りを待って、夕食。どうなんだろうか？それでも日によっては家でも 2 時間くらいは勉強したんだろうか。朝早く起きて、毎日電車で中学校に通っていた。

2000年7月2日（日） ”捨てる神有れば、拾う神有り。”

今日は早朝より次女の乗馬に付き合い、昼に戻ってきて今度は地区の壮年会のバーベキュー大会。30度を越す瀬戸川で、それでも薄曇りで時折風が吹いてくるものの、飲み干すビールもすぐに汗となり、汗だくだくのバーベキュー。遅れて行ったため、準備を手伝えずなく申し訳なかったのですが、久しぶりに地域の方々と大声で笑い、また語り合い、楽しい時を過ごさせて頂きました。そんな折、小6の男の子のお父さんから入塾のお申し込みを頂き、水曜日に改めて塾で説明させて頂くことになりました。

午後3時半頃、ほろ酔い加減で帰ってきてシャワーを浴び、心地よさにソファの中でうとうとしておりましたら、町内の塾生のお母さんからお電話を頂き、今度は中3の夏期講習生のご紹介を頂きました。”拾う神”に感謝、感謝の一日でした。

2000年7月1日（土） ”床屋に行つてさっぱりしました。”

昨日の意味深な書き込みに早速ご心配頂いた、沼津市の双葉学習院・村松先生、ありがとうございました。今日早朝、次女の小学校のPTA役員会（会長は降りたものの、今年度はまだ相談役なんでありませう）の前に、行きつけの床屋さんに行つて、それこそ暑苦しく伸びた髪と顎髭を短く刈り、さっぱりしてきました。時は7月に入り、本格的な夏を思わせる蒸し暑さに負けじと、気力を奮い起こしております。そうなんですね、村松先生のおっしゃる通りですね。一生懸命指導して200点の大台を突破し、更に次のステップに持っていた生徒がいても簡単に大手塾に流れていってしまうのを悔やむ前に、そうした生徒がなおも当スクールに通いたくなる魅力を常に作りだすべきなんですね。ちょっと現状にあぐらをかいておりました。我々は常に選ばれる立場にあることを再認識致しました。がんばろう！

2000年6月30日（金） ”ちょっと考えることがあつて、今日は日誌休みませう。”

と云うことです。”とてもちっぽけな塾の悲哀”とタイトルし、自分の思いを吐露しかけましたが、強い躊躇いを感じ、指が止まってしまいました。ごめんなさい。失礼致します。

2000年6月29日(木) ”親の責任”

先週の土曜日午後1時半頃、ある母親からお電話を頂いた。小6の息子が昼食に麦茶が出ていないことに腹を立て、食卓をひっくり返し、こぼれたご飯を足で踏みつけて自分の部屋に入ってしまったが、どう対応していいのか?ということだった。彼は、昨年12月半ば、学校でのある出来事をきっかけに不登校になり、現在も学校に行っていない。今年の2月頃から言葉も粗暴になり、いわゆる家庭内暴力が始まるも、4月頃から収まってきた矢先の出来事だった。彼の父親は永く海外に単身赴任中、この間母親が悩みながら必死に彼に対応してきた。

「お母さん、私は昼食を作ることでお母さんの責任はちゃんと果たしていると思いますよ。麦茶を出すことまでお母さんの責任ではない筈です。それを食べる食べないは、彼の判断です。食べずに踏みつけて行ったんですから、また用意する必要はないと思いますよ。ただそのことは、落ち着いて彼に話して下さい。」(注 アドラー心理学の課題論 2020.8)

私はそうお話をさせて頂いたのですが、どうなんでしょうか?

p s. 例によってちょっと話を変えてあります。ご了承下さい。

2000年6月28日(水) ”40数点の壁”

教科書は勿論理解でき、学校の問題集も難なくこなせるが、中間・期末試験ではどうしても40点台前半で、どの壁が越せず満点の50点にどうしても近づけない。――ある生徒の、そんな贅沢な悩みについて考えていた。勿論、それには人により様々な原因があり、それに応じて解決策も出てきましょう。はたまたそんなに満点にこだわる必要もないとの考えもありましょう。でも、そこはやはり学習者の姿勢として、相手(先生なり、指導者)を受け入れる素直さがその壁をうち破る鍵なのかな、なんて思いますね。常に200点台をとる生徒達は、勿論理解力は充分あり、学力もある。自信もある。それ故に、ある生徒は間違っただけの悔しさ余りに正解にこだわり、そのプロセスの把握を疎かにする。それがために壁ができる。そんな時、「そうか、だからそれが正解なのか。」と試してみたら……。

2000年6月27日(火) ”ちょっと、今日はお休みしますね。”

明日は、当スクール静岡教室にて教育関連事業協同組合の第3回総会。その準備でちょっとばかり疲れましたので、日誌は休ませて頂きます。こんなに日誌でもこのところ読んで下さる方が増えてきたようで、うれし恥ずかしい気持ちです。ありがとうございます。

・・・福岡の名焼酎「月の中(つきんなか)」を味わいながら。「これは絶対うまし!」

p s. 本日「静岡オープンスクール」のページに、私が毎日思いのままにHPに書き込んでおります、教室兼塾長事務室の写真を掲載しました(現在はありません2020.8)。私が撮

影しましたので、人物無しです。ほんと”ちっぽけな塾”ですが、これが私達の城なんです
ね。

2000年6月26日(月) ”U君、どうしたん?”

先ほど11時15分過ぎ、一人の塾生のお母さんが帰られた。

今日午後5時過ぎ、そのお母さんから電話を頂いた。「***が、また学校を休みがちなんです。どうしましょう?」「いや、私もちょっと気になることがあるんです。ただ明日、あさっては朝から授業と用事がありまして時間が取れませんので、夜遅くなりますが、今夜10時、藤枝駅前の東進衛星予備校でいいですか?」「いいです、お伺い致します。」ところが、10時直前に高校3年生の受験相談が入り、15分ばかり待って頂いた。

当時、学校を休みがちだった彼のお母さんが学校に相談に行ったところ、その中学校の別の不登校の生徒の対応をしておりました私をご紹介頂き、彼と初めて面談したのが1年半程前。体格とは正反対に気の小さな少年で、勉強にすっかり自信を失っており、話すのもポツリポツリ。

面談するのも嫌がった彼が、「面談の帰りの車の中では信じられないほど明るくなり、『俺、あの先生ところに行く。』と言ったんですが、どのような話をなさったんですか?」と母親。別に特別なことをしたわけでもありません。その時はただ自信を付けさせるために、数学の教科書を使って、まず教科書をじっくり読み、例、例題の解き方をきちんと理解させ、その解き方でそのあとの問いを解かせたんです。そうして彼のペースに合わせれば、解けるんですね。勿論、分かるまで説明をしたんですが。解けたんで、ここだけの話、べた誉めしたんです。「ほら、解けるんじゃない、いいねえ。その調子で次をやってごらん。」
「そうそう、それでいいんだよ。できるんじゃない。」

勿論、その後は学校も休むことなく、部活に”燃えて”いた。当スクールの他の学校の生徒とも仲良くなり、この頃は授業の合間には結構楽しくじゃべっていたが、家では2ヶ月ほど前から学校から帰って来るなりそのまま部屋に入ったまま眠り込んでしまうことが多く、この頃は再び学校も休みがちという。今度また彼とじっくり面談することになった。どうしたんだろうか? (ちょっと詳しくは話せませんので、この辺で)

2000年6月25日(日) ”衆議院議員選挙に思う”

身近なのに、なぜか遠く感じる政治。ましてや国政となると、よりそうした思いが強くなります。しかし、もちろん国民主権の日本、国政を決めるのは議員ではなく、私達ひとりひとりなんです。ただ何十万分の一、いや当選議員に投票した何万分の一でしかない自分の一票故に、ましてや自分が投票した候補者が落選し、その唯一の一票が死票となっちゃうと、主権者たる意識も薄れちゃうんですね。

でも、時代は次第に私達の時代になってきております。時代が私達を呼んでおります。これからの政治はこれからの人達に託されております。それゆえに、私達はもっと私達の

これからの政治を考え、議論し、それを国政に反映させてくれる議員を選んでいかなければならないと思います。議員に”大物”はいらないでしょう。”小物”であっても、常に私達のそうした意見を拾い集め、代弁する議員が必要であり、これからの私達がそうした議員を育てていくべきなんですね。政治は私達の身近にあることを、私達自身が感じ取らなければならないんですね。・・・・・・・・深夜TV報道を見ながら。

2000年6月24日(土) ”無口なY君のこと”

「お願いします。」「ありがとうございました。」授業の始めと終わりに、きちんとお辞儀をして挨拶するY君。それ以外は一言もじゃべらず、ただじっと下を向き、教科書や塾のテキストとノートを見つめ、時折黒板に目をやり、今にも消えそうな薄い字で書き留める。このところ学校の授業も週何日か、しかも午前中1,2時間だけが多いという。当スクールではオープンスクールゼミに「オープンゼミ」があって、不登校や学校の授業を休みがちな児童、生徒を個別に指導するので勧めてみたが、部活の友達が通う普通の塾に行きたいとのことで、今は通常の中3クラスに参加している。理科は好きな教科だけに理解は速いし、取り組みも積極的だ。9月の学力調査のため、期末試験後の本日から始まった1,2年の復習授業では、黒板の板書きが多く、それを書き留めるのにちょっと苦労していた。一番前の席において彼の状況を確認しながら授業を進めたが、私もジレンマに陥る。一斉授業の欠点を補うために授業の半分は個別指導に向けているが、1教科僅かに週1時間の割合で5教科指導する私達、学習塾ではその単元のエッセンスを授業し、個々の生徒の理解確認のために個別指導する。授業中は生徒の目の動きが理解度を表してくれるが、殆ど下を向いてる彼の場合、それが把握できない。彼を預かって2ヶ月、彼からの要望で何回かオープンゼミで彼を指導する中で、彼もだんだん自分のことを話すようになってきた。しかし、まだまだ。もっと彼とコミュニケーションが取れ、彼が自分の気持ちを吐露できるようになったら・・・・・・・・。

2000年6月23日(金) ”ついに45歳かあ・・・”

いやはやこれだけは黙っていようと思っておりましたが、私も先日の夏至の日に、ついに45歳。早いもので、当スクールを開いていよいよ満19年目を迎えようとしております。開塾したばかり26歳の時は、人様の教育に携わるには余りにも若く、早く年を取りたいと願っておりました。しかし、その気持ちも30歳、35歳、40歳となっていくに従って変化し、最近では週2回の不登校の子ども達とサッカーにはちょっと体がついていかなくコーチ業に専念、年を感じ始めております。(と言うか、単にちょっとふ*り過ぎかもしれません。)加えて、毎朝洗面所の鏡で我が身を見るに、トレードマーク(?)の顎髭や、すっかり薄くなり始めた髪に白い物が目立ち始め、「う~ん、まだまだ。」と、気力を呼び戻しております次第です。男、45歳、これからです。頑張ろう!

p s. 先ほど双葉学習院・村松塾長がら電話を頂きました。本ページの改行がおかしくなっております原因が、私が中央寄せで書き込んでおりますことのようなですね。もう一度全ページをチェック致します。村松先生、度々ありがとうございました。

2000年6月22日(木) ” 日誌、再開。やっばしマルナカラーメンはうまい!”

どうにか2日間で本ホームページ改行修正を完了致しました。私、通常ネットスケープコミュニケーターでホームページを読んでおりますので、インターネットエクスプローラーでは本ホームページの改行がおかしくなるとは気が付きませんでした。双葉学習院・村松塾長様、ご指摘ありがとうございました。

今日は朝9時から静岡のW君が東進衛星予備校藤枝駅前校に来校。彼は、来夏大検を受験、再来年の大学受験を目指そうとしている19歳の好青年です。先月末、彼の父親が当スクールのタウンページの広告を見て電話を下さったことから相談を受け、これまで本人やご両親と4,5回の面談を重ね、先週の金曜日の面談で当校で大検及び大学受験の勉強することが決まりました。今日は、彼の今後の細かなスケジュール作成と受講講座の内容確認、及び一部勉強の開始のため、朝から午後の4時過ぎまでかかりました。途中、その日の麺がなくなると閉店し(大体昼過ぎに閉店)、あっさりした醤油味の手打ちラーメンで評判の「マルナカそば店」に行き、彼と私は共に冷やしラーメン大と中華そば並を平らげ、大満足。” やっばしマルナカラーメンはうまし”。校舎に戻り程なして来た静岡のI君。本当は彼も同じく早朝から勉強に来るはずだったが、寝坊のためこのうまさを味わえず、悔しがることしきり。今度は元気付けに浪人生みんなで食べようね。

2000年6月20日(火) ” ホームページ修正のため、3日間お休みします”

本日、ホームページを見て頂いた方から、本ホームページの改行がおかしくなっておりますことを教え頂き、早速修正作業に入っておりますので、この間本ページをお休みします。宜しく願い致します。

2000年6月19日(月) ” 当グループも双葉学習院の勢いをもらおう”

本ホームページ・リンク集に掲載させて頂いております(現在はありません2020.8)、沼津市の双葉学習院のホームページまたご覧になって下さい。本日の「塾長日誌」に(そう、この頁を作るきっかけにもなった日誌です)を読むに、「夏期講習生71名、中3あと15名」と。この不景気にすごい勢いですね。

当スクールも現在夏期講習生募集中ですが、塾外生の申込はまだまだ数名。元々当スクールは定員が10名~20名と少なく、スタッフの関係で同じ学年に何クラスも設けられませんが、塾生+αで定員に達してしましますが、それにしても頑張ってますね。

当グループでは、東進衛星予備校藤枝駅前校が新学期の3,4月は勿論のこと、この5,6月まで入校生が相次ぎ、活気づいております。これはインターハイ県予選が終わり、高校3

年生が部活を引退して受験勉強体制に入り始めていることからです。加えて、6月から夏期講習の申込も加わり始め、スタッフ一同（と言っても、私とアルバイトの受付嬢様だけですが）頑張っております。皆様、当スクール及び当校の夏期講習を宜しくご検討下さいませ。

p s . 本日より、本日誌にサブタイトルを付けました。

2000年6月13日（日）

本日午後1時半から5時まで、中学生の「期末試験勉強会」を行いました。勿論参加は自由で、本人の自主性を尊重しておりますが、我々指導する立場からこういう勉強会に来てほしいと思う生徒は、なかなか来てくれないものですね。ただ今日は、学校によってはまだ部活動があり、またサッカーのクラブ大会もあって、参加できない生徒もおりました。そこで、日頃から遅刻や欠席が多いある生徒に電話をしたら、外出中とのこと。昨日の授業も欠席で、連絡を取るも不在のため、本日の勉強会の旨を伝えて、電話を切りましたら、2時間ほどして本人より電話、「分からないから、やめたい。」とのこと。こういうのってつらいですね。

決して言い訳ではありませんが、遅刻が多い上に、欠席の度に補習を設けるも、それも欠席がち。これでは勉強も分からなくなると、保護者も交えて話し合い、授業の半分が個別指導の当スクールの指導体制にあって、補習以外週に1日別途個別指導日設けても指導することを決めても、なかなか徹底せず、この言葉。

それこそ指導中もあって詳しく話もできず、改めて相談することにしましたが、無念の思いが募るばかりです。こうしたことはネット上で書くことではないかも しれませんが、これも塾という場で毎日様々な子ども達と悪戦苦闘している中で起こる赤裸々な一面です。

2000年6月17日（土）

三日坊主どころか、あれよあれよという間に1週間、この日誌を書き続けちゃいました。毎日静岡、藤枝のいずれかの教室で授業を終え、夜11時頃過ぎ本部＝自宅に戻り、日によってはまずは遅い夕食。そして、再び教室兼、それでも私にとっての”書斎”に入り（あと1週間もしたらこの写真も掲載する予定ですが）、パソコンで面倒な経理処理。その後、不謹慎ながら大好きな焼酎（今日は大分の焼酎）を頂きながら、じっくりと夕刊を読み、もう一つのパソコンに向かい、ニフティサーブのパソコン通信を巡回（他の頁を読まれると分かりますが、私、@ニフティ・サッカーフォーラムのボードリーダーなんでありませぬ）。そして、最後に今日を振り返って思いのままこの頁に書き込んでおります。従って、この頁の上書きは翌日の朝になっております。

今日は、昨日の皇太后様のご逝去を悼んでか一日中雨。昭和天皇と共に激動の時代を生きてこられた皇太后様に、謹んで哀悼の意を表します。

そんな折、再び夕刊に目を向けると、「バイパス投石事件 飯塚容疑者を送検」の記事。読めば、容疑者の住所が、手打ちそば道場や当Kids愛ランドの活動で日頃から大変お世話になっております、藤枝市助宗。この私が恥ずかしながら初めての講演（と言うよりはお話の会。テーマは本業の教育ではなく、サッカーでしたが）を受けて以来、もうかれこれ5,6年、この地区の方々と親しくお付き合いさせて頂いておりますが、本当にいい方々ばかりです。それゆえに、ちょっとびっくりしました。でも、当ホームページ冒頭の写真の桜の木もそうですが、この地区は自然が息づき、人々も有機農業に、炭窯造り、手打ちそば道場さらには、夏の里の楽校と、活発に活動され、とても生き生きした地域です。是非皆さんも一度お越し下さいませ。

2000年6月16日（金）

本日、ご案内を頂いた静岡星美高等学校の学校説明会に行つて来ました。過去何人もの当スクール卒業生が通い、また現在も当スクール在籍生が通っており、加えて、同校では今年度から中学・高校英数科にて男女共学の道に歩まれましたことから、その情報収集のためもあって、参加させて頂きました。

ご存知の通り、同校は、昨年創立50周年を機に校舎を新築なされ、初めて施設を見学させて頂いた。1,000名の座席数のマリアンホールを始め、板張りの床に、窓を大きく取り明るい階段室、ゆったりとした机が並べられこじんまりとした教室に、遠く富士山を眺望できる屋上と、決して贅沢な造りではありませんが、すばらしい教育環境を作られました。少子化の進む中、私学の皆さんは大変厳しい状況にあります。それだけに私学の皆さんの子ども達の教育に向ける意気込みには感心させられます。それは、私達学習塾とて同じですが、今回改めてそうした姿勢に大いに刺激されました。

説明をお伺いしながら、頂いた資料を眺めておりましたら、2年前その子のお母さんからご相談を受け、当校中学校をご紹介頂いた現在2年生のSちゃんのお名前が、清水市読書感想文コンクール入選とあり、頑張つて勉強しているSちゃんを思い、ホツとしました次第です。数年前亡くなられたお父さんも、きっと喜んでその姿をご覧になっておられるでしょう。

2000年6月15日（木）

昨日静岡新聞朝刊に、教育関連事業協同組合主催の「教育相談会」開催の記事を載せて頂きました。この「教育相談会」は記事にもまた本ホームページにもありますように（現在は閉鎖2020.8）、県内の学習塾で組織する同組合が、静岡県教育委員会のご後援を得て一昨年の11月から毎月1回の割合で開催し、不登校を中心にこれまでに30名程の皆さんのご相談を受けてきました。来訪者の方々は、東は御殿場市から、西は浜松市まで実に広範囲にわたっておりますが、数回の面談から心理カウンセリングを行つたり、また保護者の皆さんの勉強会を行つたり、さらには、ご相談者の同意を得て学校と連絡を取り対応して

参りました。

この間、15名の児童、生徒の皆さんは心理的な解決を経て、現在それぞれ小中学校に、あるいは、高校、専修学校に進学されており、3名の生徒は進学、あるいは学校に行くために、当スクールに通いながら勉強を続けております。現在は、4名の方々の対応を継続中であります。その他の方々は、私達の対応の不十分さか、1回限りで終わりその後の様子が把握できなかつたり、あるいは、ご来場の旨のお電話を頂きお待ちしておりますが、来られなかった方もおりますので、対応した延べ人数はもう少し多いかと思っております。プライバシーにも関わりますので、この場で詳しくお話することはできませんが、これまでの対応を通じて私が強く感じることは、もっと子ども達の見方でもっとじっくりと、子ども達の話聞いて頂きたいということです。私達はどうしても大人の視点から、あるいは自分の視点から、実にせっかちに物事を考えがちです。杉田先生（当時、福岡県立大学大学院教授）のお話ですが、”深い”穴に落ちた子どもは、「怖かったよー、あの穴、とっても”高かった”んだもの。」と話すのです。穴に落ちた子どもの視線から穴を見”上げ”れば、穴は決して「深く」はなく、「高い」んですね。

2000年6月14日（水）

今日は、ある先輩の話をしてしようと思っております。確か2つ年上のその先輩は、私が静岡大学人文学部1年生の時に創部したバレーボール同好会（当時はバレーボールを楽しむ会）の初代名誉会長で、この私に、「山下君が抱えているものは、今の学校という枠の中ではできないもの。それよりその気持ちがあれば、自分でそうした場をつくり、自由に構想を展開していった方がいいし、そうして貰いたい。絶対応援するよ。」と助言して頂いた。私はその言葉通り、翌年ある方の多大な援助を頂き、学生的身でありながら、有限会社を設立、自分達の構想を現実に展開し始めたのです。純粋無垢な子ども達が大好きで、中学校の頃から学校の先生にあこがれ、静岡大学教育学部に入学した先輩は1年生の頃から子ども達と一緒に活動する2つのサークルに参加し、週何日かある施設の子ども達の勉強をみたり、遊んだり、はたまた子ども達の前で、演劇や指人形劇をやったりと、それこそ大学の授業も熱心に受けながら、積極的にそうした活動に参加しておりました。そして、勿論当然のように地元・島根県の教員採用試験に文句なく合格、あこがれの教師となったのです。

そんな先輩が教師生活3年目の夏、突然静岡に来たとの連絡を受けお会いした。「バレーボール同好会での経験が今生きてるよ、山下君。一昨年初めて赴任した小学校には何もクラブがなかったんで、子ども達にバレーボールでもやろうよ、なんて話しかけたら、10数人がのってきたんだ。早速職員会議でその提案をしたら、バレーボール部だけというわけにもいなくなり、そうすると予算がないと反対され、仕方なく学校を離れて別に場所を借り、しかも日曜日に練習をやることにした。勿論子ども達は大喜びで、毎回生き生きと練習にやってきて一緒に汗をかいているんだよ。他のチームを探しては練習試合もやってもらった。でも、そうするとユニホームが必要になるんだね。仕方がないから、女房に

頼んで自費でユニホーム、作ってあげたんだ。そうしたら、子ども達はますます活発に、楽しんで練習をやるようになったんだよね。」と話す先輩の顔も生き生きとしておりました。「しかしね、そうなる学校では、こんな俺のことが問題になってくるんだよね。そりゃあそうさ。職員会議で反対されたことをやっちゃうんだからね。他にもね、若い教師が頑張ってるやっていると大先輩から妬まれる。・・・」急に先輩の表情が暗くなってきた。酒を交わしながら、話は深夜にまで及んだ。

今の学校はどうなんだろう？その先輩、今はどうしてるんだろう？もう10年も年賀状を出していない。

2000年6月13日（火）

今日から静岡教室・中学3年生クラスに、1人新塾生が加わりました。静岡東中学のA君。在籍塾生の紹介で入塾してきましたが、学校の部活が紹介塾生と同じくサッカー部。入塾申込書に社会以外の主要五科目すべてが苦手と記入してきた彼ですが、今日から始まった期末試験のための英語の復習授業では、説明しながら書く黒板（ホワイトボードですが）の重要語句や表現を必死にノートに取る姿はよかったですね。正直の所彼を入れて僅かに9名のクラスですが、その殆どが定期試験には5科目で200点（250点満点）以上をとるハイレベルなクラス。勿論、復習授業のため他の生徒は前に書いたノート（中には教科書に直接書きこんだ生徒もありましたが）を見ながらで、時折書き加える程度で余裕の姿にあつてのこうした姿は、新鮮でしたね。でも、ちょっと授業が早かったかなと反省しております。

A君、こんなハイレベルなクラスで大変ですが、みんな分からないところはどんどん聞きますし、先生もどんな疑問にもとことん説明しております。そんなみんなの質問も、結構いい勉強になりますよ。ハイレベル内容も、基本をしっかり掴んでいて初めて理解できるものです（正直、中学校の学習内容でハイレベルなものなんてありませんが。）早速ながら約10日後の期末試験にはいい結果が出せますように、一緒に頑張りましょう！

2000年6月12日（月）

今日、ここ藤枝市と岡部町内の殆どの小中学校では、学期途中の休業日で学校がお休みとなり、10日の第二土曜日から3連休となりました。しかしながら、私達のような小さな学習塾では、日曜日以外はそれぞれの学年の授業がきちんと組まれており、学校に追隨して休みを取ると、その学年だけその月の授業数が減り、不公平をもたらしてしまいます。ましてや、10日後辺りに殆どの中学校で期末試験を控え、特に中3の子ども達に、「先生、勉強しに来てもいい？」なんて言われれば、冷たくも断れず、つい昼間から教室を開け、勉強をみちゃうんですね。

今日もその口。それこそ10日の土曜日、中3のある生徒から電話を貰い、「今日は部活で疲れてしまったので、今日は休ませて下さい。その代わりに、月曜日の朝から行ってもいい

いですか？」と聞かれ、” そうかあ、月曜日休みだったよなあ。困ったなあ、日曜日（昨日の11日）は例のおやじの会だから、こっちも疲れているから、午前中は勘弁して貰うか”。日頃から学校を休みがちな子ゆえ、「いいよ。でも、先生も午前中はちょっと用事があるから一ごめん、**君、先生もちょっと年なんで前の日の疲れが残っちゃうんで、嘘ついやいました。でも、君がこのホームページを読めばその嘘がばれちゃうけどー」午後1時半からにしてよ。いい？」なんて返事をしちゃったもので、どうせならと10日の中3の授業の時、「月曜日、学校が休みだから、勉強に来たい者は、午後1時半から駅前教室に先生がいるから、来てもいいよ。なあ、***君に、**さん。そうそう、**君も来てもいいよ。」と、中には半ば強制的なお誘いをかけましたところ、この雨の中、声を掛けた生徒は勿論、それ以外にも数名勉強に来て、午後5時半頃までの「特別勉強会」。大学受験浪人生も通う「東進衛星予備校藤枝駅前校」。し〜んとした自習室では、カリカリと鉛筆を走らせる音とパタパラとページをめくる音。そして、真剣な生徒達の目。隣の個別指導室では、教える私の声とそれに答える生徒の声。1、2年生の頃はやんちゃ過ぎて、クラス変えに四苦八苦したあの生徒達も、中3になり目標を自覚するようになると、やはり変わるものですね。

2000年6月11日（日）

本日朝9時半から午後3時まで、藤枝市助宗・さと工房で、第1回青島北地区PTAおやじの会「おやじの手打ちそば」を行いました。そもそもこの会は、昨年度次女の小学校PTA会長を努めさせて頂いた私が、この3月の藤枝市青島地区新旧PTA会長会議（2中学校3小学校PTA新旧会長で構成）の席上、母親任せになりがちなPTA活動に父親の積極的な参加を目論み、年2回ほどの父親同士の交流会を設けたい旨の話をさせて頂いた折、皆さんの積極的なご賛同を得て発足した次第です。勿論これは、この3月静岡新聞夕刊にて、静岡県裾野市立東小の「オヤジの会」と長泉町立長泉中の「長泉オヤジの会」が紹介されましたことにヒントを得て、お話させて頂いたものです。あいにくの雨にも拘わらず、103名もの皆さんのご参加頂き、和やかなうちに、とても楽しく行われました。それぞれのご家族の中では、それこそ”おやじの威厳”をも保つこともできたのでは、と思っております。ご協力頂きました、森下・前青島北中PTA会長、西村・前青島東小PTA会長、木佐森・青島東小PTA会長をはじめ、がんまめファミリー倶楽部の皆さん、そして、青島北中学校、及び、青島東小学校、青島北小学校には大変感謝しております。この場を借りて、御礼申し上げます。

午前の部では、29組80名程の皆さんのご参加で、後半の皆様には随分と待って頂きましたが、その間お父さんが子ども達に竹細工を披露。はたまた、そば打ちが始まると、最初に受けた父親だけのそば打ち講習を元に、ご家族の前で汗をかきながらそば打ち体験。午後の部は9組と、午前と比べてゆったりとそば打ちができ、午前と午後の部を通じてたった1組の方だけそば粉の計量ミスでやり直しましたが、どの皆さんも上手に”二八そば”

を打ち上げ、皆さん、「おいしい」、「おいしい」の連発でした。

父親が呼びかけ人の一人ではと、仕方なくついてきた次女も、午前中は80名ほどの皆さんの受付をかってでて、参加費の徴収も間違えることなく行い、午後の部では、初めて自分でそばを打ち、”茶そば”に挑戦。親ばかながら、いつの間に覚えたんだろうと思うほど上手に打ち、夕食に食べた母親と兄、姉においしいと誉められておりました。心地よい疲れに、酒もおいしい一日でした。

p s. 「ヒゲグマ先生日誌」開設初日から、ちょっと塾とはかけ離れた内容になってしまいましたが、これも私の日頃の姿です。今後とも宜しくお付き合い下さいませ